

AEON

木を植えています
私たちはイオンです



ESG REPORT 2022

Our Hearts for “Life Design Developer”

暮らしの未来をつくるのは、一人ひとりの想いです。



イオンモール株式会社



一人ひとり、ひとつひとつの行動から サステナブルな未来へ。

私たちイオンモールは、持続可能な社会の実現をめざし
一歩ずつ、着実に前へと進んでいます。

どんなときも安全・安心な施設であること。
健康で生き生きとした暮らしをサポートすること。
その地域ならではの伝統や文化を発信すること。
環境に配慮して自然と共生していくこと。

一人ひとりがLife Design Developerとして
地域社会のためにできることを追求し、
さまざまな取り組みに挑戦しています。

これからも、地域や専門店の皆さまをはじめとする
イオンモールに関わるすべての方と心をひとつに、
サステナブルな未来をめざしてまいります。

イオンモールの理念

基本理念

お客さま第一

経営理念

.....
**イオンモールは、地域とともに
 「暮らしの未来」をつくる
 Life Design Developerです。**

経営ビジョン

アジア50億人の心を動かす企業へ

コーポレート・メッセージ


ひと、まちも、きらきら。

会社概要

社名	イオンモール株式会社
設立	1911年(明治44年)11月
資本金	42,374百万円(2022年2月末現在)
事業内容	大規模地域開発及びショッピングモール開発と運営 不動産売買・賃貸・仲介【国土交通大臣(3)第7682号】
従業員数	5,338名(2022年2月末現在)

本冊子について

編集方針	本冊子は、当社が創造する価値をいかにしてステークホルダーの皆さまにご提供しているかをご報告するために制作しています。2021年度の企業活動の中から事例を取り上げ、具体的にご紹介してまいります。
対象組織	イオンモール株式会社 イオンモール株式会社に属するグループ企業とその管理する施設が原則となりますが、環境指標については、イオンリテール株式会社から運営委託を受けている49モール、mozo wondercity、神戸ハーバーランドumie、カテプリ、イオンSENRITO専門館、株式会社OPAの商業施設を除きます。
対象期間	2021年3月1日から2022年2月28日 対象期間外の情報に関してはそのつど表記しています。 また役職名は2022年2月末現在のものです。
発行	2022年5月

Contents

6	TOP MESSAGE	30	ダイバーシティ・働き方改革
8	Life Design Developerを実現するために	34	責任あるビジネスの推進
10	未来に向けて従業員が創造する、 2030年に“イオンモール”が つくりたい社会と提供価値	38	国内モールの最新動向
		40	海外モールの最新動向
12	特集:感染症対策の取り組み	42	外部機関による認証・評価/表彰
14	イオンモールが取り組むべき課題の設定	44	補足データ
16	地域・社会インフラ開発	46	社会課題を解決する イオンモールの指針
22	地域とのつながり		
26	環境		

SDGs (Sustainable Development Goals)
 [持続可能な開発目標]

当社はISO26000に対応するCSR活動をおこなうとともに、国際社会全体の開発目標として2015年9月の国連サミットで採択された「我々の世界を変革する:持続可能な開発のための2030アジェンダ」に記載された17項目の「持続可能な開発目標」の実現に寄与する企業活動に全社を挙げて取り組んでいます。本冊子は、これらの開発目標に関わる当社の取り組みについて、それぞれのマークを記載してご紹介します。





イオンモール白山(石川県)

リアル店舗ならではの価値を創造し 地域や社会の課題を解決してまいります。

当社はイオングループの中核企業として商業施設を中心とした開発・運営をおこない、2022年2月末現在、日本国内、中国、アセアンに計196拠点を展開、Life Design Developerとして地域の皆さまの暮らしに根ざし、日々ご愛顧をいただいています。また、新型コロナウイルス感染症、気候変動による異常気象や地震などの激甚災害が増える中、大規模集客施設を運営する企業として、地域の皆さま、当社施設で働くすべての従業員の皆さまに、常に安心してお過ごしいただける環境を整えることに日々取り組んでいます。

現在、急速に変化する社会環境の中、人々のライフスタイルも大きく変化しています。そのような中、当社ではデジタル技術を

活用して、お客さまの消費購買行動変化を分析、当社のライフタイムバリューを考慮し、リアル店舗としての顧客体験価値提供の最大化を図っています。お客さまの健やかな暮らし、心の豊かさづくりをサポートし、大切な家族・仲間と、訪れるたびに元気になる、笑顔がこぼれる、お客さまのみならず地域にとっても「しあわせ」が生まれる場所「ハピネスモール」実現のため、全社を挙げて取り組んでいます。

そして、持続可能な社会の実現をめざし、サステナブル企業として社会的価値を高めることと経済的価値を高めることの両立を実践しなければなりません。そのために、当社は地域社会の発展と活性化に貢献する活動を「ハートフル・サス

テナブル」として掲げ、従業員全員が「なぜ」を共有し、本質的なESG経営実践のため、「いま何をすべきか」を一人ひとりが考え行動できる組織づくりに取り組んでいます。

本冊子は、当社が掲げる重要課題（マテリアリティ）に沿って従業員の想いととも2021年度の活動をご報告するものです。ご一読いただくとともに、引き続きご支援・ご協力をよろしくお願いいたします。

イオンモール株式会社
代表取締役社長

岩村 康次

イオンモールは、地域とともに「暮らしの未来」をつくる Life Design Developerです。

企業としてめざす姿

ひと、社会、地球の未来をいつまでも

モールがめざす姿

AEON MALLへ行くときは“わくわく”
AEON MALLから帰るときは“笑顔”



Life Design Developerの経営理念のもと、企業市民として、持続的な社会の実現に向けて、地域・社会に貢献・活性化する取り組みを『ハートフル・サステナブル』としました。当社だけでなく、お客さま、地域社会、パートナー企業さま、株主・投資家さまとともに、より良い社会をめざします。

「ハートフル・サステナブル」のロゴマークをオリジナルバッジにして全従業員に配布し、一人ひとりがサステナブルな社会の実現を常に意識してモールの開発・運営に携わることをめざしています。バッジの材料にしたのは「間伐材」。健全な森林を保ち、木々の生長を促すために間引いた木材を有効活用することで、環境に配慮して製作しました。



ハピネスモールをいっしょに。

このまちの新しい未来。
いつもの毎日も、特別な日も、
地域に寄り添って、人々につながって。
心に刻まれる体験を
ここからあなたとつくっていく。
みんなの「しあわせ」が生まれる場所へ。
ハピネスモールをいっしょに。

皆さまの安全・安心
感染症対策 P12~
防災拠点化 P16~

サーキュラーエコノミー
資源が循環する仕組みを構築 P26~

脱炭素社会
館内の省エネルギー化を推進 P28~

生物多様性
豊かな自然環境を保護 P29

その他、地域社会に貢献するあらゆる取り組み

Webサイトで詳細をご確認いただけます。
<https://www.aeonmall.com/business/SDGs.html>



HEALTH & WELLNESS

心と身体が健康になる
豊かな暮らしの提供



EXPERIENCE

リアル・デジタル両面での
新たな体験・体感の提供



COMMUNITY

お客さま、同友店さま、
地域自治体・企業との共創



SUSTAINABILITY

長期的な
持続可能性の追求



未来に向けて従業員が創造する、 2030年に“イオンモール”が作りたい社会と提供価値



Q 「社長が考えるイオンモールの未来とは？」

A 「お客さまとの接点が店舗だけでなく、“気づいたら生活の中でイオンモールと関わっていた”。そんな存在になることです」

社内プロジェクト「studio LIFE DESIGN」発足

「studio LIFE DESIGN」は、生活者やお客さま、社会の未来を想像して当社の将来あるべき姿を検討し、アクションを起こすことで社内の風土改革に取り組むプロジェクトです。2040年、2050年を見据えながら、2030年の地域・社会において、施設だけではなく企業としてのイオンモールがどのような存在・位置づけになっているべきかをバックキャスト思考で自由に考えます。議論の内容を図やイラストで可視化する「グラフィックレコーディング」で記録し、タイムリーに社内公開して透明性を高めているのもこれまでにない新たな試みです。

当社のめざす姿

「暮らしの未来」をつくるLife Design Developerとして、地域・社会の抱える課題にソリューションを提供することを事業とし、地域コミュニティの中核施設・社会的インフラとなる。

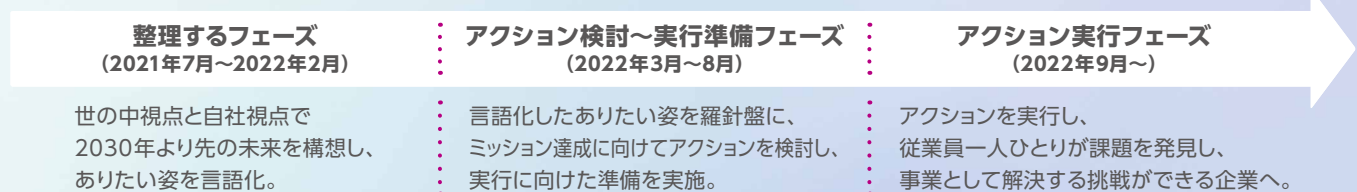
実現に必要な企業体質

地域・社会にソリューションを提供することを“事業”として実現できる。

先駆的な取り組みを通して創造

従業員として	現業の延長線上ではないバックキャスト思考	能動的に新しいことにチャレンジする姿勢	課題を発見し解決をビジネスにする思考
企業として	ありたい姿を実行できる組織	能動的に動ける仕組み	新しい課題にチャレンジする風土

活動フェーズ



プロデューサーの紹介

社内公募により、プロジェクトを担う21名のプロデューサーを選出しました。特に社内視点を整理するフェーズにおいては、当社の事業のありたい姿を多面的に捉えるため、4つのテーマに分かれて議論をおこないました。

theme A パートナーとのビジネスのありたい姿

個人を含む多様なパートナーとともに、それぞれの強みやアイデンティティを活かしながら共通目的を実現したい。そのために、パートナーとの新たな仕組みづくりが必要だと考えます。

第1開発企画部
マネージャー
新聞 由梨

関東・新潟リーシング部
マネージャー
園分 智文

マーケティング部
高力 弘司

第1開発企画部
塚澤 史子

イオンモール福津
館澤 瑛美

theme B まちづくり(経済圏形成)におけるイオンモールのありたい姿

地域とともにまちの元気が続く仕組みをつくり、多様なしあわせがある暮らしを提供したい。元気なまちを実現するためにも、地域の視点に立った課題や可能性を発掘し、解決していく仕組みが必要だと考えます。

イオンモール多摩平の森
マネージャー
山北 友佳里

イオンモール天童
マネージャー
鈴木 敬人

近畿・北陸開発部
森 亮佑

複合開発企画部
今 理子

心斎橋オーパ
マネージャー
山本 裕子

theme C マーケティング/ブランド/コーポレートコミュニケーションのありたい姿

「自分たちに寄り添って、ともに問題を解決してくれる企業」と認識されている状態を実現したい。そのためにも、生活者やパートナーとともに価値をつくる“共創マーケティング”の実現と、その価値への共感を生む双方向コミュニケーションが必要だと考えます。

マーケティング部
マネージャー
竹田 忍

海外事業推進統括部
事業管理部
田中 麻里矢

中四国事業部
マネージャー
櫻根 亮

新店第1リーシング部
佐藤 舜介

イオンモール松本
小松 香奈江

theme D 従業員・組織のありたい姿

従業員は、多様なステークホルダーに刺激を与えられる存在となり、会社は、従業員を育て、正当に評価し“働き続けたい”と思える組織に。その実現のためには、さまざまな価値観を受け入れ、個人の「自分らしさ」を発揮できる企業風土や、人材育成・評価制度が必要だと考えます。

人事統括部
採用グループ
マネージャー
増淵 香奈子

愛知事業部
マネージャー
大内 暢玲

人事部
菅野 祐以

営業企画部
一志 哲夫

イオンモールいわき小名浜
大川 航平

地域サステナビリティ
推進室
藤本 愛弓

2030年の生活者の価値観・暮らしぶりを構想し、 当社が提供できる価値を検討

社会環境視点と生活者視点を整理し、2030年の生活者の暮らしを構想しました。価値観や生活様式にどのような変化があるのか自由に想像するとともに、当社が提供したい価値を検討した結果、仕事もプライベートも“自分がどうしたいか”という「自己実現」の価値観を重視し、これを軸にさまざまな行動が変化すると仮定。技術革新が進み選択肢がさらに広がることで自分がどうしたいか迷う“自己実現難民”を、当社がサポートできるのではないか、といった議論を交わしました。



特集:感染症対策の取り組み

大規模集客施設を運営するうえで、お客さまの安全・安心より優先すべきものではありません。
当社は新型コロナウイルス感染症のみならず、恒久的な感染症対策に全社を挙げて取り組んでいます。

SDGs
持続可能な
開発目標



継続的な感染症対策への取り組み

感染症対策における当社の基本的な考え方は、新型コロナウイルス感染症がいずれ収束することを前提とした一時的な対策を取るのではなく、元には戻らないことを想定して恒久的な感染症対策を講じることにあります。2020年6月に制定した「イオン新型コロナウイルス防疫プロトコル」に基づき、徹底した感染症対策を継続するとともに、消毒の徹底、キープディスタンス、混雑度の可視化・緩和などの基本的な対策はもちろん、イベントの運用やバックヤードのオペレーションまで、全館であらゆる運営を見直し、新しい「当たり前」としての感染症対策を進化させています。



早稲田大学理工学術院との共同研究

2021年4月から1年間、建築環境学を専門とする早稲田大学理工学術院の田辺新一教授・工学博士の研究室と共同でイオンモールの施設内における感染症対策に関する研究をおこないました。当社が取り組む感染症対策に対して、実店舗の運用時のデータを取

得・分析することで、感染症対策のリスク低減の可能性や実効性を評価しました。この研究を進める中でも、新たにCO₂濃度をモニタリングして換気状況を常時監視し、お客さまへ見える化するシステムなど、新たな取り組みの導入も進めました。

効果を定量化して安心を可視化

館内で取り組む感染症対策の定量的な効果検証を実施した結果、専門的な見地も踏まえ田辺教授からは「イオン新型コロナウイルス防疫プロトコル」を制定しいち早く対応をルール化したこととあわせて、館内の換気もしっかりできていると高く評価いただきました。本研究結果を踏まえ、今後もお客さまや当社施設で働く皆さまに自信を持って施設の安全・安心を提供することができます。モールを運営する上で、感染リスクの回避はもちろん、お客さまに快適にお過ごしいただくことも大切です。研究結果を活かして対策を徹底するとともに、レジリエンスや快適性なども含め、より複合的な空間価値を提供していきたいと思っております。

開発企画統括部 建設企画部 高橋 周平



「WELL Health-Safety Rating」を取得

2021年度にオープンしたイオンモール新利府(宮城県)、イオンモール川口(埼玉県)およびイオンモール白山(石川県)は、建物をウェルネスの観点から評価するグローバル認証「WELL Health-Safety Rating (WELL 健康安全性評価)」を取得しました。この認証は、来訪者や従業員などの健康と安全に配慮し、施設を管理・運営していることを第三者検証機関により審査し、特に感染症などへの対策状況を評価するものです。



ワクチン接種会場を開設

地域の皆さまの安全・安心を守るために、各自治体や医療機関と連携し、国内約30モールでイオンホール(多目的ホール)や駐車場などの施設を新型コロナウイルスのワクチン接種会場として活用いただきました。同様の取り組みは海外でも実施しています。イオンモール ビンズオンキャナリー(ベトナム)では、地域の疾病予防管理センターや医療機関と協議・連携し、2021年7月に大規模接種会場を開設。市内の工場や商業施設で働く約3,300名を対象に、1日約650回のワクチン接種を実施しました。



海外モールの取り組み

★ 館内で約57,000名がワクチンを接種(ベトナム)

2021年の夏、国や自治体と連携して当モールの館内で3期に分けて合計約57,000名の地域の皆さまにワクチン接種を実施しました。連日多くのお客さまが集まる中でキープディスタンスに細心の注意を払い、接種後に体調不良が発生した場合に備えて医療機関とも綿密な連携を図りました。初めての試みで苦労しましたが、安全・安心を提供する商業施設としての価値を地域に示す機会になりました。

イオンモール ビンズオンキャナリー ゼネラルマネージャー グエン アイ ズン



🇰🇷 モール主導のライブコマースが成功(カンボジア)

2020年12月、コロナ禍でご来店が難しい中でもお買い物をお楽しみいただくため、カンボジアの商業施設で初めて開始したライブコマースはこれまで約40回実施し、143の専門店が参加して大変好評をいただいています。各専門店が個別に配信するのではなく、モールのスタッフが主導してグルメ、メイクアップ、ファッションなど毎回のテーマに沿った企画を工夫したことで、より多くのお客さまの関心を集めました。

イオンモール カンボジア マーケティング&ビジネスプランニング部 アシスタントマネージャー セン スレイティア



🇮🇩 広く地域のために貢献(インドネシア)

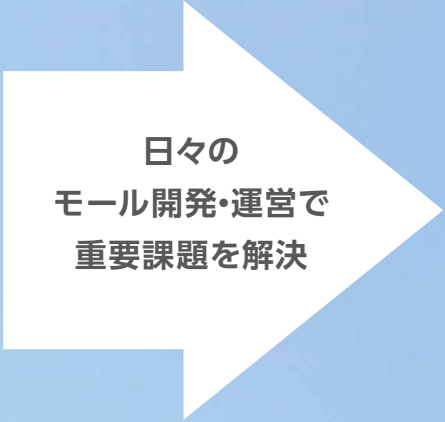
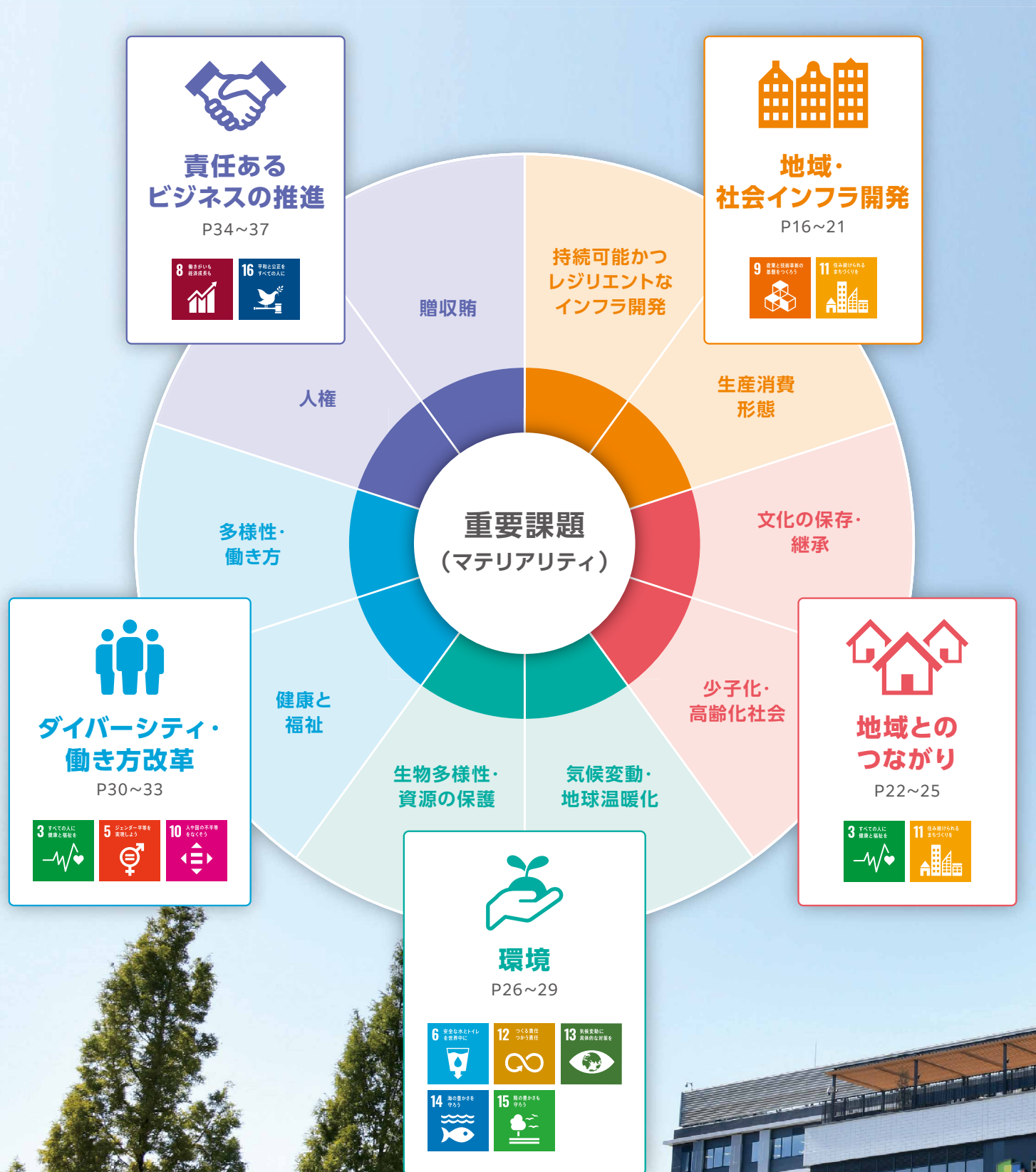
インドネシアでは、国が主導するアプリも活用して万全の感染対策を整えています。当モールでは館内でどなたでもワクチンが無料で接種できますし、地域の医療機関に500セットの防護服を寄贈しました。さらに、当モール周辺にお住まいで感染症の被害を受けた約400世帯を直接訪問して1か月相当の食料を提供しました。今後は感染や濃厚接触で隔離が必要な方の滞在場所も館内に確保できたらと考えています。

イオンモール ジャカルタガーデンシティ ゼネラルマネージャー スリ プラヨギオ



イオンモールが取り組むべき課題の設定

当社はあらゆるステークホルダーに確かな価値を提供するために、企業活動を通してさまざまな社会課題の解決に取り組んでまいります。



すべてのステークホルダーに対する価値提供

- お客さま**: 豊かな暮らしや最良の体験の提供
- 地域社会**: 地域に密着した活力のある社会の創出
- パートナー企業**: 公平・公正なパートナーシップの実現
- 従業員**: 多様な人材の活躍を推進
- 株主・投資家**: 安定的で継続的な利益の還元



万が一に備え常に安全・安心を追求

私たちは、自然災害に備えてさまざまな団体と協力関係を築くとともに地域にあわせた強靱なモールづくりに取り組んでいます。

国内のほぼ全モールで防災協定を締結

当社は安全・安心なまちづくりをめざし、行政や民間企業などの外部パートナーとの連携を強化しています。国内では、ほぼ全モールで地方行政と防災活動への協力などに関する協定を締結。イオンは陸上自衛隊や日本航空株式会社（JAL）、全国10社の電力会社とも協定を締結し、有事の際は協力してインフラ整備や物資提供などの支援をおこない、復興拠点としての役割を果たします。また、2021年6月に、災害に対する世界最先端の研究を通じて防災・減災の取り組みを推進する国立大学法人東北大学災害科学国際研究所と、公益財団法人イオン環境財団、当社の三者で、産学連携協力に関する協定を締結。「イオン防災環境都市創生共同研究部門」を立ち上げ、「防災・減災」「杜のデザイン」「感染症対策」を軸に社会貢献活動を進めています。



「全国防災キャラバン」を実施

有事の際に役立つ防災に関する知識やスキルを得ていただくことを目的に、全国のモールなどを会場としてボーイスカウト日本連盟とイオングループが中心となって「全国防災キャラバン」を実施。6年目となった2021年度は25のイオングループの商業施設で開催し、ロープワークや簡易担架などボーイスカウトのスキルを用いたプログラム、高齢者や障がいがある方への理解を深めるハンディキャップ体験などの企画に取り組み、地域の防災力の向上に貢献しました。



防災拠点としてのモールづくり

災害に強いモールづくりをおこなうことで安全・安心を提供するとともに、被災時に地域の早期復興を促進する防災拠点として機能するための施設の整備に取り組んでいます。



吹き抜け空間の天井は、単位面積当たりの重量を軽量化することで落下による二次被害を最小限に抑えています。



停電時にも防災センターや事務所などの主要な管理室の電源を確保できる非常用発電機を導入しています。



耐震性を有した受水槽は、断水・停電状態においても飲料水を利用できるように緊急用給水口を設置しています。



受電設備などの重要機器は、津波や水害による浸水の影響を受けない高い位置に設置しています。

東日本大震災の復興拠点として地域に安心を提供 ●イオンモールいわき小名浜(福島県)

「そこに行けば安心」な防災モールの開発



2018年6月にオープンしたイオンモールいわき小名浜(福島県)は、東日本大震災で甚大な浸水被害を受けたいわき市の協力事業者として、被災地を支援したいという想いで開発しました。私たちの使命は、徹底した災害対策で地域の安全を守るとともに、賑わいを取り戻せる復興のシンボルをつくること。本来なら最も集客力のある1階部分をピロティ構造にして、津波の浸水被害を抑える設計にこだわりました。2022年1月のトンガ沖噴火で津波が発生した際は自主的にモールに避難した周辺住民の方がいたと聞き、地域の皆さまに「何かあったらイオンモールに行けば安心だ」という想いが浸透しつつあると感じました。これからも、地域ごとに想定されるさまざまな災害を踏まえて、各モールに必要な設備を検討・導入することで安全を提供してまいります。



開発本部 エリア開発統括部 関東開発部 担当部長 賀須井 俊之

地域を巻き込んだ体験型の防災イベント

2021年11月、イオンモールいわき小名浜において大切な人を守る「家族防災」をコンセプトに、防災啓発イベント「やってみっけ!いわき防災Expo」と地域住民参加型の津波避難訓練を実施。防災意識を高める取り組みにより、被災時の復興拠点となる防災モールの開発に関わった多くの方の想いの体現をめざしました。



訓練と検証を重ねて、さらなる安全・安心を

東日本大震災を経験していないお子さまが増えていることを受け、小学生向けの体験型のイベント企画を数多く開催しました。中でも、防災に関する家族の約束などを書いた紙を折りたんでオリジナルのお守りをつくるワークショップでは、「おばあちゃんのもつくりたい」といった声もあり、コンセプトの「家族防災」に込めた想いが伝わったと感じます。津波避難訓練では、営業時間外でもモールの屋上に避難できる経路の確認などをおこない、一時避難施設としての認知向上をめざしました。皆さまの安全を守るには、ハード面での防災設備を備えるだけでなく、ソフト面で運営する従業員のスキルアップも重要です。継続的な取り組みにより、防災モールとしての役割を果たしてまいります。



イオンモールいわき小名浜 オペレーション担当 寺内 香成絵

事業者さまと協働で災害に強いまちづくりを実現 いわき市 危機管理部 災害対策課 主幹兼課長補佐 持地 史隆様

イオンモールさんから企画のお話を伺い、市としてぜひ協力したいと思いました。避難訓練は市の総合防災訓練にあわせて実施し、地域住民や周辺施設の方も参加して本番さながらにおこなうことができました。従業員の皆さまの確かな対応により、地震被災時にモールを津波避難ビルとして有効に活用させていただけることをあらためて確認しました。今回の事例を民間事業者が主体となる防災取り組みモデルとして、さらに防災体制の強化を進めてまいります。イオンモールさんには、小名浜地区の中心的な商業施設かつ防災拠点として、「災害ゼロ」を実現する「危機管理モデル都市いわき」のまちづくりにご協力いただきたいと思います。





イオンモール新小松(石川県)

国内・海外の各モールで独自の防災活動を推進

私たちは、モールで働く一人ひとりが高い防災意識を持ち、各種施策を実施しています。安心して過ごしていただける施設運営に向けた各モールの活動をお伝えします。



自発的な行動を促す防災訓練の徹底 ●イオンモール和歌山(和歌山県)

継続的な訓練でより安全なモールを追求

生活の基盤となる地域の安全を守るモールをめざし、防災訓練に力を入れています。訓練想定などを告知せず実際の地震発生時に近い状況を想定するほか、専門店の皆さまには事前に班を決め、どう動くかを話し合っていたことで自発的な行動を促すなど、全館で積極的に取り組んでいます。2021年12月、開店前に震度5の地震が起きた際は、ゼネラルマネージャーが不在の時間でしたが館内にいた各従業員が状況確認に務めるなど自身の役割を果たしてスムーズに対応し、普段の訓練の成果を感じました。継続的な訓練を通してさまざまな状況での課題を発見・解消し、現状に満足することなく安全を追求しています。「イオンモールがあるから安心」と、地域から必要とされる施設をめざしてまいります。



オペレーション担当
中野 純希

防災拠点としての地位確立 ●イオンモール名古屋茶屋(愛知県)

楽しみながら防災を学ぶ機会を提供

2021年11月に、1週間にわたって「体験型防災フェスタ2021」を開催しました。楽しみながら災害について学んでいただくことをコンセプトに、防災知識で謎解きをする脱出ゲームやARゴーグルを使用して浸水を疑似体験できる企画などを実施しました。お子さまから大人まで夢中になって参加していただいた様子が印象に残っています。また、専門店にも広くご協力を呼びかけて、各店のさまざまな商品をお客さまが買い回りしてオリジナルの防災バッグをつくっていただく企画をおこない、専門店の皆さまからも好評をいただきました。当モールは名古屋市と津波避難ビル協定を締結し、津波が発生した際は一時避難の受け入れ体制を整えています。継続的なイベントの実施でモールの役割を地域に発信し、防災拠点としての地位を確立していきたいです。



オペレーション担当
井尻 竣



オペレーション担当
石堂 双葉



イオン生活圏の安全を創造 ●イオンモール熱田(愛知県)

より良いまちづくりに総合的に貢献するモールへ

当モールは、地域の生活者を起点とした商品・サービス・生活基盤のシームレスな提供をめざす「イオン生活圏の創造」の一環として、防災意識の向上や健康促進など多岐にわたる取り組みを進めてきました。災害時に帰宅困難者の一時避難を受け入れる防災協力事業所となり、2019年には最寄駅からモールへ至る市道のネーミングライツを取得し、愛称を「あつたハピネス通り」としました。2021年12月に開催した防災イベントは、日頃から積極的にコミュニケーションを取っていた行政や企業とのつながりが広がり、当初の予定の4倍近い26団体に参加いただきました。今後はコロナ禍で中断していた地域の方との合同訓練を再開するなど取り組みを強化し、皆さまからいっそう頼りにされるモールにしたいと思えます。



オペレーションマネージャー
金森 文美



営業担当
大平 澄佳

不断の防火活動の推進 ●イオンモール天津津南(中国)

重点的な火災防止で地域の消防安全模範会社に認定

イオンモール天津津南(中国)では館内の安全性を高めるため、重点的な火災防止に取り組んでいます。定期的な設備点検や防災研修の実施などにより安全管理を徹底することで、2021年の事故発生件数ゼロを達成するとともに、津南区の政府や消防隊の推薦により地域消防安全模範会社に認定いただきました。普段の取り組みが政府や各機関への信頼につながったと感じます。お客さまやモールで働く従業員の安全確保には、火災の早期発見・対応が重要です。安全性の追求にゴールはありません。これからもモール全体で協力し、いっそう安心して過ごしていただける施設づくりを進めてまいります。

防火活動の取り組み例

- 防災担当の人員を増加
- 火災感知システム、スプリンクラーの凍結を防止する設備などを設置
- 所属に応じてお客さまの避難誘導などの研修を実施(2021年は約60回開催。専門店や当社従業員など計2,500名が参加)
- 政府との情報交換により防災に関する制度を随時更新



管理部 マネージャー
李 鹏程



イオンモール常滑(愛知県)

暮らしの拠点として館内の利便性を向上

私たちは、デジタルイノベーションに取り組むとともに公共性の高い施設を開設し暮らしの拠点として利便性の高いお客さま体験を提供しています。

「スマートモール」の推進

最先端のデジタル技術を導入し、お客さまのお買い物をさらに便利で快適にする「スマートモール」の取り組みを積極的に進めています。インドネシアでは、大手ECプラットフォーム運営会

社JD.IDと協業で、バーチャルイオンモールの提案やライブストリーミングプラットフォームの共有など、オンラインとリアルを融合し、お客さまの利便性向上に取り組んでいます。



イオンモール川口(埼玉県)とイオンモール白山(石川県)で、モバイルオーダーサービスを導入。イオンモールアプリで各飲食専門店の注文から決済までをおこない、店頭で待つことなく商品の受け取りが可能です。



イオンモール Nagoya Noritake Garden(愛知県)で、イオンモールアプリから動物園や水族館などの仮想空間を体験できるARコンテンツの実証実験を開始しました。



フードデリバリーサービスは、専門店のメニューを出前館から注文いただくと、お客さまのご自宅やご希望先までスムーズにお届けします。



イオンモール常滑(愛知県)では、アプリで注文した飲食店の商品を自律走行ロボットが施設内の離れた場所へ運ぶ非接触型配送サービスの実証実験を開始しました。

DX認定事業者の認定を取得

2022年1月、当社は経済産業省が定めるDX認定制度に基づく「DX認定事業者」として認定を取得しました。DX認定制度は、日本全体のDX(デジタルトランスフォーメーション)を促進することを目的とし、情報処理の促進に関する法律に則り経営とシステムのガバナンス状況が優良な企業を国が認定する制度です。

ユニバーサルデザインの深化

訪れるすべてのお客さまが安心して快適にお過ごしいただけるよう、当社は2005年に商業施設初の本格的なユニバーサルデザインを導入し、定期的にアンケートなどからお客さまのご意見を伺い、継続的な改善に取り組んでいます。2021年10月にオープンした、オフィス複合型商業施設のイオンモール Nagoya Noritake Garden(愛知県)では、多様な働き方を可能にする環境づくりを目的としオールジェンダーに対応した男女共用トイレを設置しました。

期日前投票所の開設

お子さま連れのご家族や学生の方が来場しやすく、選挙を身近に感じてもらえる快適な施設環境で投票していただくとともに、モールで働く従業員にも投票しやすい環境を提供することを目的に投票所の開設を推進。2021年10月の第49回衆議院議員総選挙において、全国55箇所のイオンモールおよびイオンショッピングセンターに期日前投票所を、2箇所に当日投票所を開設しました。

館内に大型クリニックを開院

イオンモール Nagoya Noritake Garden(愛知県)では、館内に名古屋大学医学部附属病院と連携する大型クリニック「ナゴヤガーデンクリニック」を開院しました。20科目の豊富な診療科に加え、健康診断や人間ドックの高度な検査も可能で、総合病院並みの設備と先進医療で地域のお客さまに安心を提供しています。

地元の特色を活かした学習スペースを開設

2021年3月、イオンモール神戸南(兵庫県)では、地域の皆さまの「子どもたちが自由に勉強できる場所がほしい」という声にお応えして館内に学習スペース「みんなの学び場」を開館しました。自習スペース40席、読書席18席を用意し、いつでも誰でも個人学習や読書ができるほか、兵庫区ならではの多文化交流や絵本の読み聞かせなどのイベントを開催。室内のイラスト装飾には、兵庫区を拠点に活動するザ・ロケット・ゴールドスター(山崎秀昭氏)を起用するなど、兵庫区らしさに徹底的にこだわった空間を実現しました。

地域の皆さまと協働して課題を解決

地域が抱えている課題をイオンモールと地域の皆さまが連携して解決することが大切だと考え、区のみちづくり課、地元のNPO法人、社会福祉法人、その他多くの皆さまと協力して開設に取り組みしました。ある高校生のお母さまから「私の世代からの悩みをイオンモールが解決してくれて本当に嬉しい」と感謝の声をいただいたのが印象的です。デザインのほか、書籍にも兵庫区に関連したものを用意し、単なる自習室ではなく地域の学習の場として活用できることにこだわりました。自習スペースの椅子やテーブル・スポット照明は可動式で、イベントにあわせてレイアウトを変更できます。生涯学習の場としてイベントや書籍をさらに充実させて、幅広い世代の方々に楽しく利用していただきたいです。

イオンモール神戸南 ゼネラルマネージャー 宮本 雄次





埼玉県北部の羽生市・加須市・行田市・鴻巣市の4市と連携し、自然の魅力を発信(イオンモール羽生)

地域の魅力を活かした活気あるまちづくりを支援

私たちは、地域の皆さまと連携して魅力の発信や課題解決を推進し、各モールで生き生きとしたまちづくりに貢献する取り組みをおこなっています。

「産学連携協力に関する連携覚書」を締結

産学が相互に協力を図ることを目的に、各地域でイオンモールと教育機関の連携が進んでいます。イオンモール Nagoya Noritake Garden (愛知県)は学校法人三幸学園と、イオンモール白山 (石川県)は学校法人金城学園 (金城大学および金城大学

短期大学部)、学校法人国際ビジネス学院、石川県立翠星高等学校と、それぞれ「産学連携協力に関する連携覚書」を締結。地域社会、産業および企業の振興に向けた協力体制を強化しました。

活躍の機会を創出し地域を活性化

伝統ある農業系高校と専門店が協力して地産地消をテーマにしたオリジナルドレッシングを開発。また、短大の幼児教育学科とはユネスコ登録をめざす白山手取川ジオパークを題材に絵本を制作するなど、産学連携を締結した学校の専門分野を活かした取り組みをおこないました。普段の授業とは異なる貴重な経験になったという声をいただいています。学生の皆さんは準備から一生懸命で、そのエネルギーに圧倒されました。当モールが掲げるコンセプトの通り、地域の皆さまの「かがやきたい」を実現できる場所として、何かに挑戦する方を後押ししていきたいと考えています。プロに限らず発表の場を提供するなど、誰かのかげやく姿から感動が生まれて笑顔があふれるショッピングモールとして、地域に寄り添ってまいります。

イオンモール白山 営業マネージャー 木原 弘樹



地域の魅力を磨く「究極のローカライズ」

経営ビジョンのひとつ「私たちは、パートナーとともに、地域の魅力を磨きつづける究極のローカライズに挑戦します。」を実現するため、全国のイオンモールでは若手社員を中心に各地域の魅力を発信する独自企画を立案しています。7年目となる2021年

度は、全国から集まった354企画の中から審査を経て11企画を実施。また、中国でも初めての試みとして山東省エリアの2モールから13企画が集まり、その中から3企画を選出・実施しました。

地元の自然の魅力を発信

彩×北 Nature Project

●イオンモール羽生(埼玉県)

2021年10月から11月にかけて、地域の緑豊かな自然の魅力を知らせていただくことを目的に、埼玉県北部の羽生市・加須市・行田市・鴻巣市の4市と、各市で活動している諸団体と連携し、県内に自生する植物の展示や紹介ブースの設置、天体観測など、実際に自然環境に触れていただく企画を実施。お子さまとともに、ご家族でお楽しみいただきました。



地域環境の隠れた魅力を発信

ラムサール条約に登録された湿地や世界最大の田んぼアートなど、当モールの周辺には魅力的な自然資源がたくさんあると気づいたことが企画提案のきっかけです。羽生市だけでなく周辺の加須市・行田市・鴻巣市の行政や地域団体にもご協力いただいてエリア全体の活性化につなげたいと考えました。期間中に実施した展示、体験会、物産展などはいずれも盛況で、スタッフと交流しながらご家族で楽しく地域の環境を学んでいただいた様子が印象に残っています。協力団体の皆さまからは「今後も継続して開催したい」という声をいただいております。情報発信の拠点として地域の魅力をアピールできたと感じています。

イオンモール羽生 営業担当 熊田 瑞樹



高齢者の豊かな生活に貢献

最高のひととき・高齢者がもっと輝けるおもいやり企画

●イオンモール煙台金沙灘(中国)

山東省煙台市は、中国全国平均より13年早い1987年から高齢化社会に入り、現在約4人に1人が高齢者と言われています。イオンモール煙台金沙灘は、地域の皆さまにより高齢者の方への関心を持っていただくとともに、高齢者のお客さまに思いやりのあるサービスや生き活きと自己表現する場を提供することを目的に、行政や地域コミュニティなどさまざまな団体と連携し、無料健康診断、詐欺防止講座、髪のカットサービス、広場ダンス大会などを開催しました。



高齡化社会への問題意識を高めるために

約10の団体と協力して企画準備を進め、政府とは高齢化の問題に対して当モールができることを社内のチームで検討・提案しながら連携を深めました。広場ダンス大会などのイベントには約2,000名が参加し、毎日ダンスを練習するなど多くの方にお楽しみいただきました。地域の課題解決に貢献するとともにイベント期間中の売り上げアップにもつながり、イオンモール中国から優秀なチームとして表彰いただいたのは嬉しかったです。今後も、高齢者の皆さまにさまざまなライフスタイルを提案してまいります。

イオンモール煙台金沙灘 管理部 主管 姜 爱丽





イオンモール幕張新都心(千葉県)

健康を増進し生き生きとした暮らしに貢献

私たちは、皆さまの心身ともに健康的な暮らしをサポートするとともに訪れるすべての人が安心してお過ごしいただけるモール環境を整えています。

幅広い世代の健康増進に貢献

地域のお客さまの健康意識や健診受診率向上を目的に、2020年に全国健康増進協議会と協定を締結し、全国のイオンモールでの健康診断やがん検診の実施を推進しています。2021年度は25モールでのべ58回の健診を実施。また、気軽な健康体験イベントと、当日受付にて受診が可能な健診・検診をセットにした取り組みをスタートしており、例えばイオンモール福岡(福岡県)では酸素サーバーを使った健康的な呼吸法や野菜不足のチェックなど楽しく体験できるコーナーを、イオンモール京都桂川(京都府)では健康意識の高い女性向けに専門家の先生をお招きした講演会など、がん検診や健康診断とあわせて参加しやすい企画を開催し多くのお客さまの関心を高めています。



気軽さを重視した地域の健康拠点を創造

お買い物ついでに「ふらっと」健康状態を確かめられる環境を整え、徐々に実施規模を拡大しています。参加されたお客さまのほとんどが偶然その場を通りかかった方で、イオンモール福岡とイオンモール京都桂川では、アンケートにご回答いただいたすべての皆さまに「参加して良かった」と満足いただき、潜在的なニーズに応えることができましたと感じます。気軽にご自身の健康を見つめ直す機会を提供できるのは、暮らしに密着し普段から親しんでいただいているイオンモールの強みです。地域の健康拠点として取り組みを継続するとともに、全国へ水平展開していきたいです。

マーケティング統括部 エンターテインメント推進部 エンターテインメントグループ 羽太 雄紀



進化するイオンモールウォーキング

お客さまの健康的なライフスタイルをサポートするため館内にウォーキングコースを設置し、季節や天候、時間に左右されず、お買い物しながら気軽に運動できるイオンモールウォーキングを国内ほぼすべてのモールで実施しています。2021年9月には、地域の皆さまの健康やコミュニティに及ぼす影響を明らかにすることを目的に、千葉大学予防医学センターとともに「イオンモールウォーキングと健康」を題材にした共同研究を開始しました。今後も、地域の健康的なライフスタイルのサポートに取り組んでまいります。



座談会「認知症の方も安心してご来店いただけるモールへ」

当社は早くから認知症の問題に向き合い、現在約400名の従業員が「認知症サポーター」に登録されています。各モールでは専門店従業員も対象にした「認知症サポーター養成講座」を定期的実施するほか、お客さま向けの啓蒙イベントも開催しています。現在の取り組みや今後の課題について、各モールの担当者が意見を交換しました。



講座で得た知識を活かしてお客さまに対応

認知症サポーター養成講座を受講してまもなく、「モールの駐車場に停めた車が見つからない」と困っていた高齢のお客さまに対応しました。講座で学んだ話し方やテキストの内容を思い出して目線を下げてお話を伺い、時間をかけて一緒に車を探し当て、笑顔でお帰りがたうことができました。より多くの従業員が講座を受講することで、認知症の方に優しい施設としてモールの価値を高めます。高齢者の方が健康的に安心して暮らすために、イオンモールアプリを認知症予防や孤独死などの社会課題の解決に活用するなど、当社ができることはまだまだ多くあると考えています。

イオンモール旭川駅前 営業マネージャー兼インバウンド推進リーダー 田村 好勝

地域ぐるみで認知症の方も暮らしやすいまちへ

当モールでも従業員向けの認知症サポーター養成講座を毎月開催しています。業務が忙しい専門店の皆さまが参加しやすいようにプログラムを60分に凝縮し、巡回中に各店へお声がけなど受講者を少しでも増やせるように努めています。中には自身でご家族の認知症介護をしている方もいて、「専門の方に相談できて気持ちが楽になった」という声がありました。今後はお客さま向けのイベントとして脳を活性化させる体操を企画するなど、気軽に楽しく認知症への理解を深めていただける機会を設けたいと考えています。万が一、認知症の方がご家族とはぐれた場合もサポートできる体制を整えるとともに、モールに留まらず地域全体で意識を高めていきたいです。

イオンモール佐野新都市 営業担当 川崎 正江



気軽に認知症を理解する機会を提供

当モールは認知症の方も安心してお買い物ができる施設として、2019年に兵庫県から「阪神北・認知症サポート商店街」に認定いただいており、認知症の方への理解を深める積極的な取り組みを進めています。私自身の介護経験からも認知症の方と接する難しさや知識の必要性を感じており、お客さま向けに開催した「認知症フレンドリー講座」では認知症の方にどのように物が見えているのかをVRで体験できる企画を実施し、若い世代の方にも興味を持って参加いただきました。「阪神北・認知症サポート商店街」として皆さまの期待に応えるとともに、県がめざす「住み慣れた地域で安心して暮らせる社会の実現」にも貢献していきたいです。

イオンモール伊丹昆陽 営業担当 田中 敦子



評価されるべき率先した企業活動 NPO法人 風の詩 理事長 永島 徹様

イオングループは早くからこのテーマに向き合い、私は約10年前から認知症サポーター養成講座の教材作成や講師を担当してきました。毎回、従業員の皆さんから熱心な質問をたくさんいただいています。認知症は高齢者だけに発症するものではなく、誰もが自分ごととして捉えるべきもの。認知症の方と接するときは、医学的な知識だけでなく、その人物を理解しようとする姿勢が大切です。お客さまのニーズをつかむのが大事なのは病気の有無に関わらず同じことですね。安心してお買い物に行ける施設は、社会の大切な資源です。地域に根ざすモールだからこそ、行政機関や福祉施設と連携するなどさらに取り組みを強化することで、いっそう人々の笑顔が集う場所になると期待しています。





リサイクルされた衣料品を子どもたちに配布(カンボジア王国 チェチョニア小学校内)

資源の有効活用を推進

私たちは、廃棄物の削減に取り組むとともに再利用の仕組みを構築し資源が循環する社会をめざして環境課題の解決に努めています。

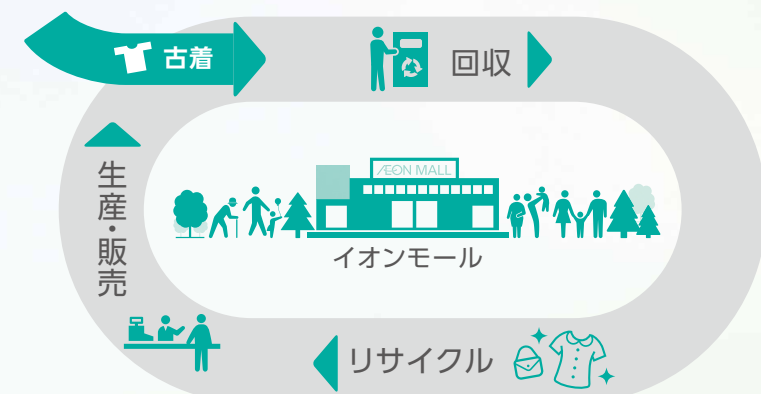
サーキュラーエコノミーを推進

廃棄物発生量の増加が世界的に深刻化する中、経済活動の中で廃棄されていた製品などを有効活用し、資源として循環させるサーキュラーエコノミー（循環型経済）の取り組みが国内外で進んでいます。当社でもサーキュラーエコノミーの実現をめざして、6Rs[※]の取り組みを実施。また、20年以上前から廃棄物を17種類（現在は18種類）

※Rethink（考え直す）、Reduce（減らす）、Reuse（再利用する）、Recycle（再資源や製品化する）、Repair（修理する）、Returnable（購入先に戻す）

に分類してリサイクルを推進しており、2021年度は国内直営モールのリサイクル率（サーマル・リサイクルを含む）92.7%を達成しました。今後も、館内で使用する資源の量を減らすとともに、ご家庭で不要になった資源をお客さまから回収して再利用するなど、資源が循環し地域の経済が活性化する社会の実現をめざしてまいります。

サーキュラーモールのイメージ(例:衣料品)



サーキュラーモール

モールの集積・規模を活かしながら、お客さま、専門店、地域社会との共創によって循環型社会を実現すること

資源が循環するモールづくりを推進

当社のごみゼロの実現のため、モールを起点に地域の循環型経済を確立する「サーキュラーモール」の構築をめざしています。ごみのごみでなくリサイクル可能な資源として活用できるように専門店従業員さまに基本18品目となる分別をお願いしています。また、モールが家庭のごみや服など不要になったものの回収拠点となれば、回収したもから新しく製品をつくって皆さまに還元したり、回収にともなう雇用を生み地域の経済活性化につなげるなど、地域に広く価値を提供することもできます。2021年度はイオンモール日の出（東京都）にてビニールを回収し、製品制作につなげていく資源循環の実証実験にも参加しました。引き続き、循環施策を検討し「サーキュラーモール」構築をめざしていきます。

戦略部 ESG推進グループ 寺井 沙織



衣料品回収「幸福リレー」開催

2021年に、全国139モールでお客さまが使わなくなった衣料品を回収する「幸福リレー」を開催しました。この企画は、循環型社会に貢献する取り組みとして、日本環境設計株式会社が運営するリサイクルプロジェクト「BRING™」と連携して実施したものです。合計約103tの衣料品を回収し、中でもポリエステル繊維を使用したものは再生資源としてリサイクルされ、新たな衣料品として生まれ変わります。また、カンボジアのイオンモールと連携し、日本国内の7モールで回収した約110kgの衣料品の一部はカンボジアの子どもたちに配布し、再利用していただきました。



輪が広がる「衣料品回収プロジェクト」

当モールでは、お客さまから衣料品を回収してお買物券をお渡しするイベントを2019年から独自に実施してきました。当初はリサイクル業者に引き渡すだけでしたが、やがて児島地区の企業のご協力で回収衣料から再生した服やバッグの販売もできるようになり、2021年11月に開催した第7回では2日間約13,500枚もの衣料を回収し、服飾の専門学校生によるリサイクルワークショップなども実施して地元メディアで話題になりました。参加を希望する企業からの問い合わせも増えています。SDGsに関する企画でも、地域の皆さまに心から喜んでいただき、当社の利益にも貢献することが私たちの使命だと考えています。

イオンモール岡山 営業担当 黒部 達也



海外モールの取り組み

★ 環境活動をリードする存在に(ベトナム)

ベトナムでは廃棄物リサイクルの協力会社を探すのに苦心したり、廃棄時の輸送に膨大な費用がかかるなど、社会的な仕組みが十分に成熟していません。それでも私たちは、プラスチックや紙のリサイクルの宣伝および館内でのリサイクル強化について、商業施設としてはもちろん社会全体もリードする存在をめざします。2022年の夏には協力会社と連携し、お子さまを含むお客さま向けにリサイクルをテーマにしたイベントも計画しています。



イオンモール ビンズオンキャナリー
オペレーションマネージャー
グエン ホンカム



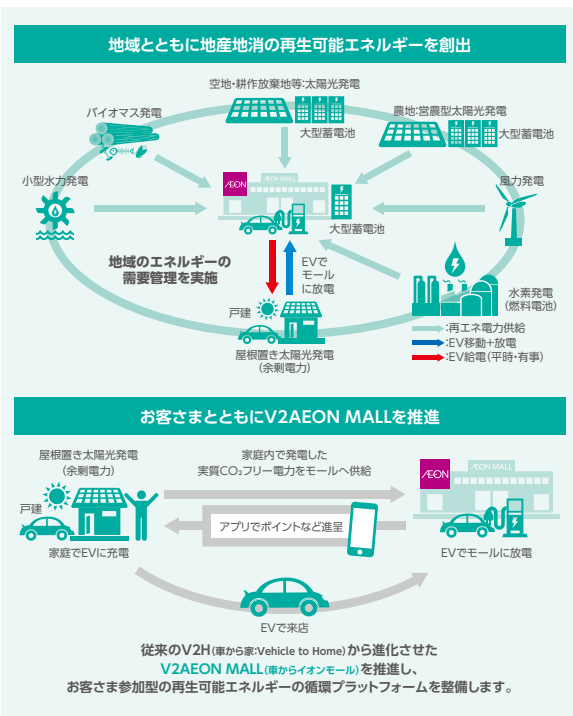
イオンモール ベトナム
オペレーション デビュティマネージャー
グエン ナム フォン

🇰🇵 啓発活動の情報発信拠点として(カンボジア)

カンボジアでは環境問題への関心がまだ低く、啓発活動としてモール館内でプラスチック削減を呼びかける動画を放映しました。この動画は国連開発計画・カンボジア環境省・日本大使館・スウェーデン大使館が協力して制作したもので、インフルエンサーも多く出演することからお客さまの注目を集めました。政府からもイオンモールにはこうした社会啓発の役割が期待されており、今後も有益な情報を継続して発信します。

イオンモール カンボジア 管理部 総務マネージャー ハン チャイカニカー





環境に配慮した持続可能なモールを提供

私たちは、脱炭素社会の実現をめざしてエネルギー消費の削減を進めるとともに、緑あふれるまちづくりを促進しています。

再生可能エネルギー100%店舗の推進

脱炭素社会とは、地球温暖化の原因となる温室効果ガスの排出量を削減し、実質排出量ゼロをめざす社会のことです。温室効果ガスの中でも特に影響が大きいといわれているCO₂の削減が課題になっています。当社は脱炭素社会の実現をめざし、太陽光発電設備およびEV（電気自動車）充電器の設置などの省エネルギー活動を推進しています。電気とガスの両方でCO₂排出量実質ゼロの施設としては、2021年にオープンしたイオンモール川口（埼玉県）が大規模商業施設として国内初の運用を開始しており、イオンモール Nagoya Noritake Garden（愛知県）も商業施設として東海エリアで最初の運用事例となりました。また、周辺地域と協力して地産地消の再生可能エネルギーの創出に取り組むほか、お客さまに家庭内で発電した実質CO₂フリー電力をEVでモールに供給いただくV2AEON MALLの推進をめざしています。今後も省エネルギーの取り組みや再生可能エネルギーの活用を積極的に進めてまいります。



100%CO₂フリー電力で運営しているモール

※2022年3月現在

- イオンモール川口（埼玉県）
- イオンモール上尾（埼玉県）
- イオンモール Nagoya Noritake Garden（愛知県）
- mozoワンダーシティ（愛知県）
- イオン藤井寺ショッピングセンター（大阪府）
- イオンモール福岡（福岡県）

「イオン脱炭素ビジョン」に基づく 脱炭素社会の実現に向けた達成目標

2025年

当社の国内全モールの使用電力を100%再生可能エネルギーへ

2040年

直営モールで地産地消の再生可能エネルギーを100%使用

アースデー

地球環境について考える日として提案された記念日「アースデー」である4月22日から4日間、お客さまとともに地球を想う大切な時間を過ごすためのさまざまな企画を実施しました。消費電力の削減によってCO₂排出量を減らすことを目的としたライトダウンリレーは、全国138モールで夜間に屋外照明の一部を消灯。削減した電力消費量は、1モールが外観や周辺の照明を115時間（約4.8日）消灯した場合に相当します。



屋外照明の一部を消灯

環境問題を楽しく学べる機会を提供

お客さまとともに環境問題について学ぶ取り組みとして、2021年の環境の日（6月5日）より全国のイオンモールで「イオンサステナキャンパス」を開催。地球温暖化や海洋プラスチックが動物たちに与える影響をクイズ形式で学べるクイズラリーや、環境省の後援でMYボトルのデザインを自由に考えていただくコンテストなど、楽しみながら環境問題を考える機会を提供しました。



イオン ふるさとの森づくり

1991年にマレーシアでスタートした「イオン ふるさとの森づくり」。イオングループは、植樹活動は「お客さまを原点に平和を追求し、人間を尊重し、地域社会に貢献する」という基本理念を具現化する活動と位置付けています。国内・海外ともに新しいモールがオープンする際には、地域の自然環境に最も適した、土地本来の樹木をお客さまとともに植える植樹祭を実施しています。2021年度は国内外で約2万8千本を植樹。2022年2月末現在、グループの累計植樹本数は約1,242万本に達しています。



生物多様性の保全

動物や植物、昆虫など多種多様な生き物がつながり共存する生物多様性を保全するためには、生息地となる豊かな自然が必要です。温暖化などさまざまな問題により1年間で40,000種もの生物が絶滅しているといわれており、地球規模で早急な対策が求めら

れています。当社は事業活動により発生する生態系への影響を把握し、緑あふれる環境に配慮した施設づくりをおこなうとともに保全活動を積極的に推進しています。

ABINC認証(いきもの共生事業所®認証)を取得

ABINC認証は、一般社団法人 企業と生物多様性イニシアティブ (JBIB) が作成・登録した「いきもの共生事業所®推進ガイドライン」に基づき、生物多様性に配慮した緑地づくりなどの取り組みを「いきもの共生事業推進協議会」が第三者的に評価・認証するものです。2022年3月に、イオンモール新利府 北館(宮城県)、イオンモール新利府 南館(宮城県)、イオンモール川口(埼玉県)、イオンモール羽生(埼玉県)、イオンモール上尾(埼玉県)、イオンモール白山(石川県)で認証を取得し、今回で計15モールが認証取得となりました。

その他過去にABINC認証を取得したモール

- イオンモール多摩平の森（東京都）
- イオンモール座間（神奈川県）
- イオンモール松本（長野県）
- イオンモール常滑（愛知県）
- イオンモール長久手（愛知県）
- イオンモール東員（三重県）
- イオンモール堺鉄砲町（大阪府）
- イオンモール四條畷（大阪府）
- THE OUTLETS HIROSHIMA（広島県）



ABINC認証を保全活動の指針に

2021年のG7サミットで「2030年自然協約」が採択されるなど、自然保護は世界で喫緊の課題です。地球環境保全のための脱炭素化と同様、生物多様性の保全は今や持続的な企業活動に必須であり、当社ではその指針として科学的に評価されるABINC認証の活用を考えています。認証を取得した中でもイオンモール羽生（埼玉県）の「究極のローカライズ企画」(P23)は、地域の課題解決や自然の魅力発信に貢献した理想的な試みです。今後は、植樹祭や育樹祭に加え、場所性に配慮した継続的な活動を通して、地域の価値創造をめざしてまいります。

開発企画統括部 建設企画部 マネージャー 佐々木 恵



SDGs
持続可能な
開発目標



イオンモール新利府 (宮城県)

すべての従業員が長く活躍できる職場環境を提供

私たちは、ライフステージの変化に合わせた働き方をサポートするとともに、専門店を含めたすべての従業員に快適な職場環境を提供しています。

育児休業取得を推進

出産や育児と仕事の両立を支援するため、各種制度を整えるとともに育児休業を利用しやすい環境づくりに取り組んでいます。2021年度は63名（うち男性36名）の社員が育児休業を取得しました。男性社員については2019年度と比較して約2倍の増加になります。また、男性の積極的な育児参画を推進しており、さまざまなサポートをおこなっています。

夫婦で育児に参加することで不安を解消

妻は1年半、私は約1か月の育児休業を取得することにしました。夫婦で育児に取り組むことで一緒に悩みに向き合う時間をつくるとともに、今後の生活に必要な準備に集中できました。育児休業を申請する際も理由などは求められず、むしろ取得しない場合にその理由が問われるようになっており、会社全体として「男性も取得が当然」というコンセンサスができつつあるのを感じました。部署内の業務分担が心配でしたが、周囲の方にも快く協力いただきスムーズに引き継ぎができました。また、人事部の方が親身に相談に乗ってくださるとともに、社内ガイドブックの「育なび」で理解を深められたことも安心につながりました。子育て世帯の視点は、今後の業務にも活かしたいですね。

管理本部 経営管理部 連結コントロールグループ 東口 恭大

初めての育児で手探りな状況の中、子育てのやり方や夫の復職後の生活についてなど、一緒に考え、試行錯誤する時間を持てたのは良かったです。些細なことも話せる相手がいる、精神的にも落ち着いて過ごすことができたと感じています。

CX創造本部 営業統括部 営業企画部 東口 美彩 (旧姓:池田)



最適な育児休業の取得をサポート

人事統括部としてライフステージに関わらず末永く活躍できる環境づくりをめざしています。共働き世帯が当たり前となる今、性別に関係なく長期的にキャリアを形成するためには双方の家庭・育児参画が必要です。その一環として男性にも安心して育児休業を取得いただくため「育児休業取得計画シート」を導入し、出産予定日確定後の早い段階から本人、家族、また所属部署の希望を確認しながら最適な形での取得方法を一緒に計画しています。業務の調整や給与面など不安に思う事は些細なことでもご相談いただき、一つずつ解決しています。今後は男女ともに長期間取得の実現も含め、より仕事と家庭との両立がしやすい環境をめざし取り組んでまいります。

人事統括部 人事部 ダイバーシティ推進グループ 川端 千尋

出産・子育てをサポートするガイドブックを発行

子育てと仕事を両立したいと考える従業員が安心して出産・育児に専念し、スムーズに復職するための社内向けガイドブック「育なび」を発行・配布しています。「子どもをそだてる キャリアをはぐくむ」をテーマに、それぞれのステージで適用される制度や手当、必要な知識や手続きなどをわかりやすくまとめたもので、ワークライフマネジメントのために各部署で活用しています。



「イオンゆめみらい保育園」の展開

子育て世代が安心して働き続けられる環境づくりの一環として、事業所内保育所「イオンゆめみらい保育園」をイオングループで32園設置し（うち22園は当社の商業施設）、イオングループ各社や専門店の従業員、地域住民の方にご利用いただいています。原則的に年中無休で各モールの営業時間に合わせて運営し、各専門店が仕事と育児を両立するスタッフを受け入れて長く働き続けていただくための環境づくりを支援します。また、天候に左右されないイオンホールで運動会を開催するなど、モール内の保育園だからこそのイベントや地域の特徴を活かした行事で子どもが心身ともに成長する機会を創出しています。



専門店従業員の活躍をサポート

専門店従業員の職場環境改善

人材不足が社会的な問題になっている中、当社の商業施設に出店いただいている専門店の従業員が長く活躍できるよう職場環境を整えてES（従業員満足度）を向上することもディベロッパーとしての責務と考えています。従業員休憩室には、専用のコンビニエンスストアやパウダールームのほか、無料のマッサージチェアを設置するなど、心身ともにリラックスできる空間づくりを順次進めています。また、各モールが取り組んでいるES向上施策のうち優秀な事例は積極的な水平展開を図っています。



リラックスルーム

接客技術の向上をめざして

国内外のモールで、接客に対する意識の向上を目的に、専門店従業員が日頃培った技術を競い合う「接客ロールプレイングコンテスト」を実施しています。お客さまに魅力ある施設環境や商品を提案するだけでなく、従業員一人ひとりの笑顔や挨拶、心地よさを提供することを大切に考え、サービスマインドのさらなる向上をめざしています。5回目の開催となる中国では、計20モールの専門店全従業員が参加し、内40名が全国大会に出場。全国大会は初の試みとなるライブコマースで実施し、20モールで一斉配信しました。



イオンモール北京国際商城 (中国)



イオンモール ベトナム ホーチミンオフィス

将来を見据えた成長の機会を創出

私たちは、人材育成に取り組むとともに従業員がキャリア形成の悩みを相談できる機会を設け、将来のライフスタイルを見据えて安心して働ける環境づくりをおこなっています。

活躍の機会を創出する海外モール

現在、当社は中国およびアセアンに34モールを出店しています。海外のモールは、グローバルな企業理念のもとでローカルスタッフによって運営することを基本方針とし、人材育成と積極的な幹部職位への登用を進めています。

自身の能力を活かせる企業

入社してまもなく6年、従業員がキャリアアップする機会が整った企業だと感じています。充実した研修プログラムがあり、評価も公平です。基本理念である「お客さま第一」が他社と比較できないほど徹底していて、当初は「どこまで対応すればいいのか」と悩んだり、厳しい規律が現場に適用しにくいと感じたこともありましたが、今では企業の考え方を理解して、誠実にモチベーション高く目標達成に貢献したいと考えています。

イオンモールBSD CITY
ゼネラルマネージャー
アメリカ



さらに客観的で公平な評価のために

各従業員に対して具体的な目標を設定し、所属長・部長・ゼネラルマネージャーが慎重に人事考課をしています。来年からは、さらなる客観性・公平性を担保するために、面接などの導入を検討しています。肩書とは切り離して各自の能力に応じた給与体系にするべきというのが私の考えで、よりいっそうローカルスタッフを信頼して、能力を証明する機会を多く与えていただければと思います。

イオンモール インドネシア
人事・総務部 シニアマネージャー
ロニー マハーディカ



従業員の成長やライフスタイルにあわせた働き方をサポート

当社は「従業員の『考え』を聞き、『心』を知り、従業員を活かす」という人事の基本理念を掲げており、従業員が生き生きと活躍できる職場環境づくりに取り組んでいます。28歳・35歳・42歳の従業

員を対象にしたキャリアプラン面談は、一人ひとりがキャリア形成の悩みや将来のプランを人事統括部に相談できる機会として、ライフスタイルを見つめ直すきっかけを提供しています。

キャリア形成の不安を軽減



キャリア面談は、あらためて人生設計を考える機会になりました。複数のモールをサポートする現在の部署で得た知識や経験を活かし、将来はよりお客さまに近い現場での勤務を希望していますが、女性として今後のライフプランを思い描く中で、子どもを持ったときに育児や家庭と仕事を両立できるか不安も感じていました。面談はなごやかな雰囲気、担当の方は悩みに寄り添い、要望も前向きに検討していただきました。同じように自身のキャリアに悩みを抱えている方は多いと思うので、面談者の対象範囲を広げて、より多くの方のキャリア形成の一助になってほしいと感じています。



中四国事業部
営業サポートグループ担当
杉山 友華

目標への道筋が明確に



2013年の入社当初から、モールの運営に携わりたいという想いがありました。これまで販促、施設管理の業務をそれぞれ経験することができ、将来はゼネラルマネージャーとして、魅力的な店舗が揃った安全・快適なモールづくりをしたいと考えています。キャリア面談では、私の意向を確認した上で今後のキャリアプランと一緒に考えていただくなど、親身に相談に乗っていただきました。規定を読むだけではわからなかったことも丁寧に教えていただき、新しい気づきにつながりました。目標に対してどのようなプロセスで進んでいけば良いかビジョンをイメージできたので、これからのキャリアプランに活かしたいです。



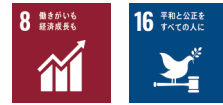
イオンモール日の出
営業マネージャー
飯塚 剛士

一人ひとりのキャリアをともに考える

「自分のキャリアは自分で切り拓く」という人材育成の基本方針のもと、個々のキャリア形成支援の一環として人事部で面談を実施しています。「キャリアプラン面談」の対象になるのはライフステージに変化が起きやすい28歳、業務の中核を担う35歳、経験を積んで考え方の幅が広がる42歳、いずれもキャリアを見つめ直す機会が多い年齢の従業員です。結婚・出産にともなうキャリアの停滞、介護・病気の治療が必要な場合など、それぞれが抱えている不安を払拭して今後の進路をともに考えます。年に2回キャリアプランを会社に伝える「自己申告制度」だけでは把握できなかった個人の想いを受け止め、経営理念を具現化する人材の発掘・育成・配置に活かします。そのほかにも、今後はさまざまな学びの機会を提供して自己啓発を推奨するほか、社内公募を拡充することで従業員の自己実現を支援したいと考えています。また、ワークライフバランスの取れた働き方を実現する「健康経営」の視点で、一人ひとりの健康増進意識の醸成や有給休暇の活用、業務生産性向上による長時間労働の削減などに取り組んでまいります。

人事統括部 人事部長 中垣 智子





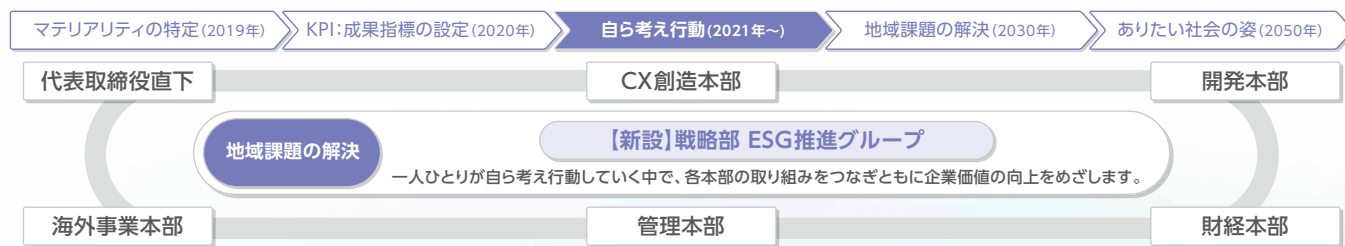
法令を遵守し公正な事業運営を推進

私たちは、社内の監督体制を強化するとともに従業員のガバナンス意識を向上し健全なモラル運営を推進しています。

組織改革によりESG経営を強化

ESG視点に基づく経営を通じて社会的・経済的な価値を創出し、地域社会とともに成長することをめざして、2021年に組織改革を実施しました。マテリアリティのKPI達成に向けて全社で取り組みを加速させる役割を担うESG推進グループを発足したほか、これまで社会貢献や環境活動などを提案・報告する場として機能してい

たCSR会議は、CSRを含めたESGの課題を解決するESG推進分科会とESG推進委員会に進化。組織体制を強化するとともに従業員一人ひとりの意識を高めるため、年間の個人目標にESGの要素を含めることで社内への浸透を図っています。



社会に寄り添うESG経営で企業価値を向上

世界には環境汚染や人権侵害などさまざまな問題があふれており、課題解決への取り組みも企業価値を決定する大切な要素の一つです。ESG経営を通してパートナー企業さまと社会や環境への価値を共創し、お客さまや地域にも共感いただくという連鎖が、地域経済の循環につながると考えています。こうした活動には従業員の協力が重要で、一人ひとりに「なぜ取り組むのか」を正しく伝え、行動を促進するのがESG推進グループの役割です。ステークホルダーの皆さまともにより良い社会をつくるため、企業イメージの向上や経営リスク軽減、新規事業の創出にも注力してまいります。

戦略部 ESG推進グループ マネージャー 森本 満



社内の表彰制度「ESGアワード」を新設

ESG経営を強化する中、マテリアリティやKPIを設定して2030年までの行動指標を定めています。全社で一丸となって目標達成をめざすため、活躍した従業員を表彰する社内制度「ESGアワード」を新設。ESG活動の意欲的な実施を促し、取り組みを加速しています。

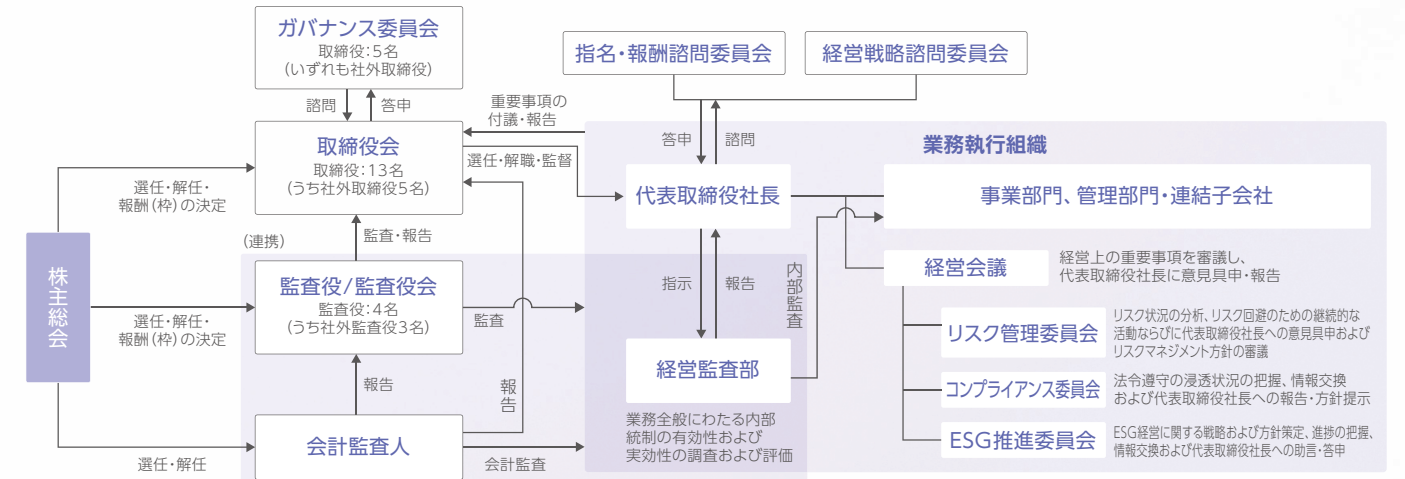
「ESGアワード2021」受賞者

- イオンモール旭川駅前 営業担当 大西 美希
- イオンモール白山 営業マネージャー 木原 弘樹
- イオンモール岡山 営業担当 黒部 達也
- イオンモールいわき小名浜 営業担当 若月 沙織
- イオンモール草津 オペレーション担当 大竹 茉莉
- イオンモール福津 営業担当 伊藤 沙彩
- イオンモールいわき小名浜 営業担当 秋山 卓充
- イオンモール和歌山 オペレーション担当 中野 純希
- イオンモール宮崎 営業担当 芦田 実月
- イオンモール熱田 営業担当 大平 澄佳
- イオンモール伊丹昆陽 営業担当 黒田 美恵子
- 財経統括部 財務部 財務グループ 長野 誠一郎
- イオンモール大垣 営業マネージャー 長崎 靖美
- イオン明石SC 営業マネージャー 藤川 勝
- 人事統括部 人事部 ダイバーシティ推進グループ 川端 千尋

経営体制

社長の諮問機関として経営会議を設置し、経営戦略機能の強化と意思決定プロセスの効率化を進めています。また、代表取締役社長を議長とする取締役会を月1回以上開催することにより、経営監督機能の強化を図っています。

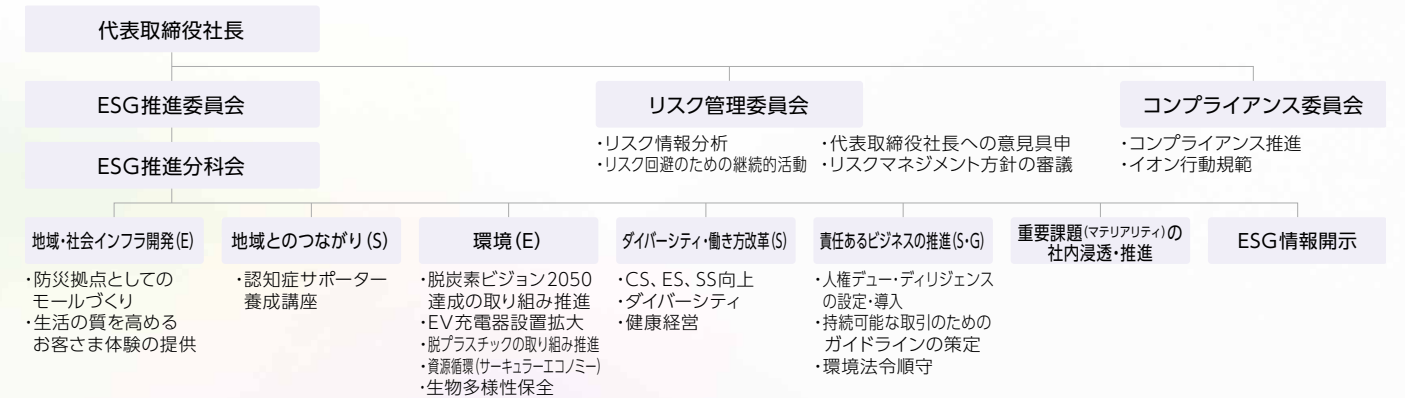
コーポレート・ガバナンス組織図 (2022年4月末現在)



取締役会 経営監督機能の強化のため、代表取締役社長を議長とし、月1回以上開催。監査役も出席。(取締役13名のうち5名が独立役員)

監査役会 監査の実効性・効率性向上のため、会計監査人と内部監査部門である経営監査部と都度相互の情報交換・意見交換を実施。

ESG推進体制図



サステナビリティ・リンク・ボンドを発行

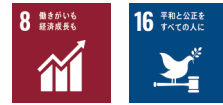
社会課題の解決と環境配慮を目的に、サステナビリティ・リンク・ボンドを発行しました。本社債は、2025年度末における国内の全モジュールで使用する電力の改革を実質CO₂排出量ゼロを達成目標とし、未達成の場合は発行額の0.2%相当額をイオン環境財団などの公益財団法人に寄付することを定めました。今後もESGの取り組みを拡充し、持続可能な社会の実現に貢献してまいります。

社債発行でESG経営を広く発信

従来より環境や社会課題の解決に役立てるためにESG債による資金調達を推進してきましたが、より野心的な将来の目標を掲げ、それを達成するかどうかで条件が変化するサステナビリティ・リンク・ボンドを発行することで、資金調達の段階からサステナブルな社会の実現をめざす企業姿勢を投資家やお客さまに広く発信できると考えました。また、ESGに関連した各モジュールの日々の取り組みが資金調達の一助となり、ひいては企業の成長につながることを従業員が実感できるという利点もあります。一人ひとりがESG経営を身近に感じることで、全社で協力して目標を達成し、ESGの推進に貢献していきたいと思ひます。

財経統括部 財務部 財務グループ 長野 誠一郎





人権への理解を深め個々の価値観を尊重

私たちは、多様な価値観を認め合い性別や国籍による差別のない社会をめざし、当社に関わる一人ひとりが人権を尊重して事業を進めています。

人権方針・人権体制・人権研修

イオンでは、「お客さまを原点に平和を追求し、人間を尊重し、地域社会に貢献する」ことを不変の基本理念として、法令の遵守はもとより、正しい行動を実践することですべての人々に対して「誠実」であり続けたいと考え、2003年4月に「イオン行動規範」を制定しました。2014年9月には、人権や労働環境に関する考えを明文化し、「イオン行動規範」を推進する「イオンの人権基本方針」を定めています。当社もこの理念・方針を踏襲して、人権を尊重し、性別や国籍に関わりなく企業の発展に参画できる組織、またすべての従業員の能力が最大限に発揮できる職場の実現をめざしています。全従業員が年1回人権研修を受講しており、社内外の相談窓口を記載した小冊子を全従業員に配布し、就業規則には人権尊重、差別禁止などを明記しています。

人権デュー・ディリジェンスを実施

イオンの人権基本方針では、企業活動における人権への影響を特定し、防止・軽減措置に取り組む「人権デュー・ディリジェンス」の実施を明記しており、当社でも2020年から取り組みを開始しています。定期的に人権リスク低減に取り組む体制を構築することをめざして「実態把握とギャップ分析」「人権課題の抽出」「リスク評価と影響特定」

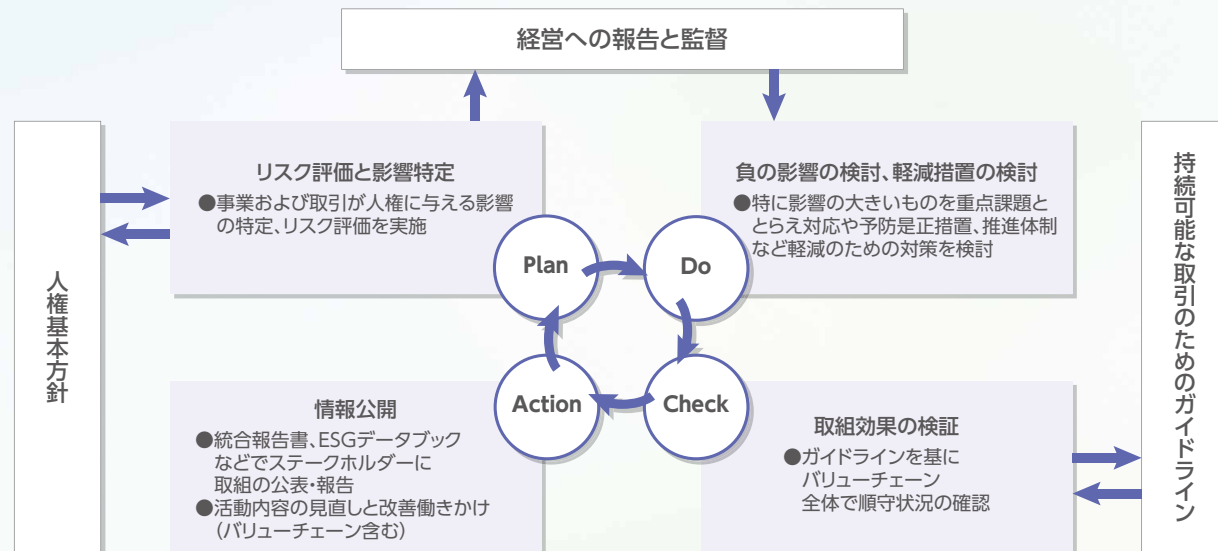
役員コンプライアンス研修を実施

2021年12月に、専門家や弁護士から人権をめぐるグローバルの現状や人権にともなう企業リスクの事例、お取引先さまの取り組み事例などを学び、人権やコンプライアンス遵守の重要性をあらためて確認しました。



「軽減措置の検討」のプロセスで推進。2021年度は実施範囲を当社とし、当社および上流サプライヤーのアセスメントを実施しました。プロセスの実施後は是正計画を策定して人権リスク軽減のためのPDCAサイクルを確立し、国連が策定する「ビジネスと人権に関する指導原則」で求められる人権を尊重する企業の責任を果たします。

人権デュー・ディリジェンスを軸とした、人権リスク軽減のためのPDCAサイクル



「持続可能な取引のためのガイドライン」を策定

人権侵害となる可能性がある事案発生を未然に防ぎ、持続可能なバリューチェーンを構築するため、当社ではイオンの人権基本方針、イオンサプライヤー取引行動規範をもとに、外部の専門家の意見を取り入れながら2021年8月に「持続可能な取引のためのガイドライン」を策定しました。人権・労働に関する国際規範や業界における人権項目を確認し、中でも特に当社がビジネスをおこなう上で重要な項目を特定して記載。今後、イオングループおよびお取引先さまに共有し、遵守をお願いするとともに、実施状況の把握に努めながらサプライチェーン上の人権リスクの管理と低減をめざします。ガイドラインの詳細については、以下の当社ホームページをご覧ください。

持続可能な取引のためのガイドライン

- | | |
|---------------|-------------------|
| 1.法と規則 | 8.結社の自由および団体交渉の権利 |
| 2.児童労働 | 9.安全衛生 |
| 3.強制労働 | 10.環境 |
| 4.労働時間 | 11.商取引 |
| 5.賃金および福利厚生 | 12.地域コミュニティ |
| 6.虐待およびハラスメント | 13.誠実性および透明性 |
| 7.差別 | 14.エンゲージメント |

ガイドラインの詳細 https://www.aeonmall.com/esg/society/02/#human_rights_guide



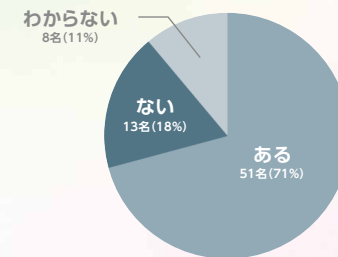
お取引先さま向けに人権意識を高める説明会を開催

2021年12月、建設関係のお取引先さまに当社の人権についての取り組み方針をご理解いただき、ともに公正なビジネスを推進するため、「『ビジネスと人権』及び『持続可能な取引のためのガイドライン策定』説明会」を開催しました。約80社、100名の方にオンラインでご参加いただき、国際社会で課題になっている人権問題や企業として果たすべき責任のほか、建設現場で発生した労働環境や人権侵害の事例をご紹介。今後も、ビジネスパートナーとして当社に関わるお取引先さまのリスク削減について一緒に取り組みます。

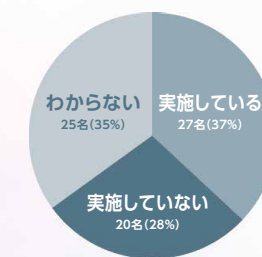


説明会終了後に実施したアンケートの結果 (回答者:72名)

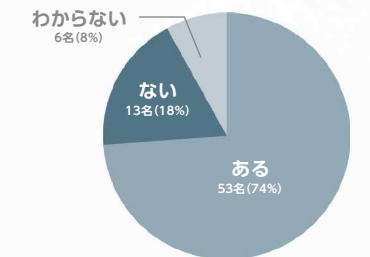
Q1 貴社ではビジネスと人権についての取り組みはありますか。



Q2 貴社では人権デュー・ディリジェンス (人権への影響の特定、予防・軽減、対処、情報共有) を実施していますか。



Q3 貴社では自社内に外部苦情処理の仕組みがありますか。



人権リスクを管理し、問題の発生防止に努めているお取引先さまが多いことが確認できました。

ビジネスと人権

私自身これまで、「人権」というとハラスメントや雇用環境のことなどを指しているという認識でした。2021年度より、ESG推進グループでビジネスと人権を推進する中で、今、国際的に重要課題とされていることがサプライチェーンを含む人権問題で、当たり前だと思っていた人間らしく自由に生きる権利が子どもも含め侵害されているという現状を知り、グローバル展開している企業としてはもちろんですが、子どもをもつ母親としてもきちんと対応する必要があると感じています。当社では「ビジネスと人権に関する国別行動計画」に基づき取り組みを進めています。社内全体に関わる内容のため、専門家の意見を伺いながら関係部署の知見を集約して実施することが大切だと考えています。また、お取引先さま向けに説明会を実施しておりますが、内容をご理解いただくことに加え、自社の活動やお取引先さまの事例をご紹介することで情報発信の拠点となり、パートナー企業の皆さまと一緒に取り組みを進めたいと思います。

戦略部 ESG推進グループ 金坂 美雪



国内モールの最新動向

2021年度は国内で4モールが新たにオープン。次代を見据えたこれまでにない業態に挑戦するなど、地域やお客さまのさまざまなニーズを満たし、暮らしをより豊かにするモールの実現をめざしています。

新規オープン

商業とオフィスが融合した新業態モール

●イオンモール Nagoya Noritake Garden (愛知県)

2021年10月、商業施設開発と「働く人と企業の成長を支えるオフィス」を融合する事業フォーマットを採用した1号店として誕生しました。併設する「BIZrium 名古屋」はイオンモールが初めて手がけるオフィスで、ワークとライフをシームレスにつなぎ、よりゆとりある暮らしと柔軟な働き方を創出。都心でありながら豊かな緑に恵まれた立地で、「自然と自然になれる場所」をモール全体のコンセプトに、誰もが自分らしくいつでも自然体で過ごせる空間を提供しています。



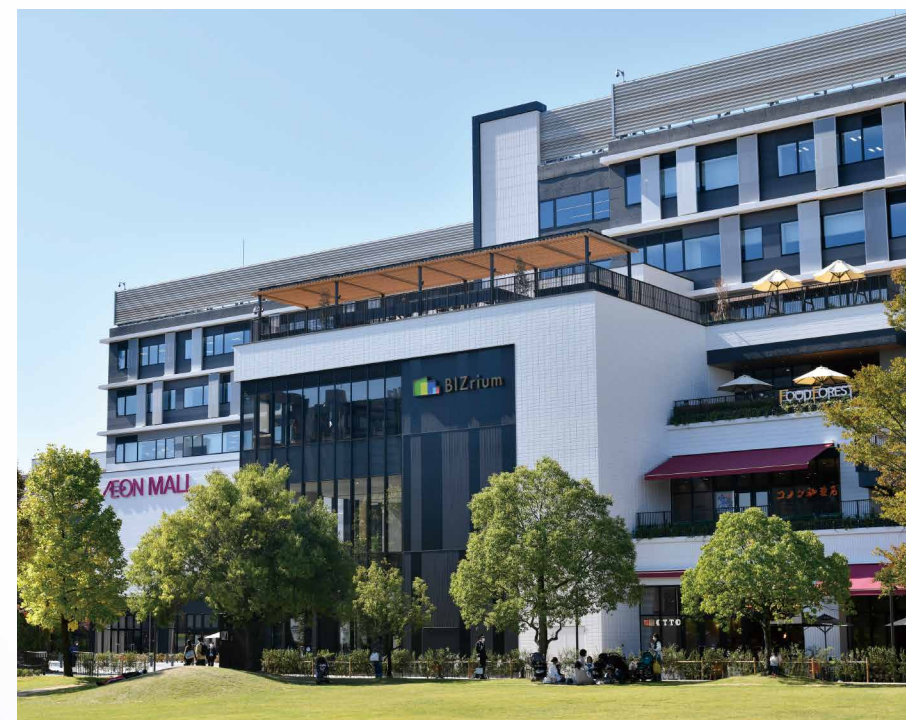
4～6Fに開業した、次世代型オフィス「BIZrium 名古屋」のエントランス。



開放的なテラス空間は、働く仲間との談笑や一人での気分転換などさまざまなシーンで利用可能。



アプリで簡単に予約が可能な会議室を執務エリア近くに約40室ご用意。



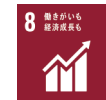
働く人の想いと暮らしに寄り添うオフィスを追求

これまで培ってきた経験も活かして、入居企業さまと実際に館内で勤務する方々の双方の視点から理想的なオフィスのあり方を追求してきました。用途に応じて効率良く使える共用の会議室を多数配置して効率的にフロアを利用いただけるほか、育児・食事・お買い物・医療などとオフィスを機能的に融合して、働く皆さまのオンとオフをつないで快適に過ごせるように配慮しました。働く人の健康の観点から建物を評価する「WELL認証」の予備認証も取得しています。緑豊かな空間で、さまざまな人たちが生き生きと輝く。そんな「WORK LIFE BLEND OFFICE」の理念に共感いただき、オフィス需要が減少するコロナ禍でも多くの法人にご入居いただくことができました。

BIZrium 名古屋 マネージャー 佐藤 遼河



SDGs
持続可能な
開発目標



北陸エリアの新たな交流拠点に

●イオンモール白山(石川県)

2021年7月、北陸3県からのアクセスも便利な石川県白山市にオープンし、北陸地方初と石川県初が4割を占める約200店舗が集結しました。館内中央の「かがやきストリート」は、街路樹が立ち並び街歩きが楽しめる空間を創出。エリア最大級のグルメゾーンでは日本を代表するシェフがプロデュースした料理を味わえるなど、幅広い世代に「喜び」「驚き」「感動」体験を提供し、地域のコミュニティ拠点を担います。



かがやきストリート

地域への理解を深めてニーズを把握

新しいモールをつくる際に最も重要なことは、地域の特性を理解することです。開業の2年前から白山市役所の関連部署の方と対話を重ねるとともに1年かけて県内の全市町村をまわり、地域の文化やライフスタイルを研究しました。バラエティ豊かな飲食店の誘致は、外食比率が高い県民性に応えたこだわりの一つです。周辺エリアは雨が多いことから、地域の皆さまからの要望を踏まえて子どもが遊べるアミューズメント施設や遊び場を館内各所に導入しました。本を読んで過ごすなど憩いの空間になっている「かがやきストリート」とともに、天候に左右されずにお楽しみいただけます。これからも地域の皆さまと連携し、地域社会の発展に貢献できるよう尽力してまいります。

イオンモール白山 ゼネラルマネージャー 小寺 和也



東北最大級のエンターテインメントモールへ

●イオンモール新利府 南館(宮城県)

イオンモール新利府 北館と隣接する形で2021年3月にオープン。東北初となる最新の体験型アミューズメント施設を導入し、小さなお子さまから3世代ファミリー、シニアまで楽しめる空間を生み出しています。最旬のファッションやバラエティ豊かな食とあわせて、「LIVE FULL DAYS」をコンセプトに興奮と感動に出会える毎日を地域の皆さまにお届けします。



ニューノーマルに応えるモールへ進化

●イオンモール川口(埼玉県)

多様化するニーズやデジタル社会に対応するため、2018年に営業を一旦終了し、2021年6月に新しく生まれ変わりました。「Kawaguchi green park」をコンセプトに緑あふれる公園のような心地よい環境の中で快適な時間を提供するとともに、ニューノーマルな社会環境に合わせたリアルとデジタルを融合した新しいサービスを提供しています。



その他2021年度にリニューアルを実施したモール

- イオンモール新利府 北館(宮城県)
- イオンモール川口前川(埼玉県)
- イオンレイクタウン kaze(埼玉県)
- イオンレイクタウン mori(埼玉県)
- イオンレイクタウンアウトレット(埼玉県)
- イオンモール岡崎(愛知県)
- イオンモール鈴鹿(三重県)
- イオンモール草津(滋賀県)
- イオンモール京都桂川(京都府)
- イオンモール岡山(岡山県)
- THE OUTLETS HIROSHIMA(広島県)

海外モールの最新動向

中国とアセアンでは2021年度に2モールがオープンし、既存モールでも積極的なリニューアルを実施。時代の変化や現地での課題を見据えながら、地域の発展に貢献するサービスと価値を提供します。

新規オープン

デジタルによる未来型ショッピングを体験

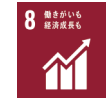
●イオンモール広州新塘(中国)



2021年5月、広州市の副都心に指定された、地下鉄などの交通インフラ整備やハイテク企業の誘致が進む成長著しいエリアに広東省4号店としてオープン。顔認証決済やAIインフォメーションをはじめ、デジタル技術をサービス、エンターテインメント、

安全管理などに活用し、誰もが快適で楽しさに満ちた時間を体験できます。1階中央の星空広場を360度囲むように1周約60mのLEDスクリーンを設置するほか、館内通路に55台のデジタルサイネージを導入しペーパーレスを推進しています。

SDGs
持続可能な
開発目標



インドネシア初の都市型モールが誕生

●イオンモール タンジュンバラット(インドネシア)



2021年11月に一部先行オープンし、2022年5月にグランドオープンしたインドネシアの4号店は、ジャカルタ中心部から南へ約15kmのエリアに位置する、当社としては同国初となる都市型モールです。オフィスやレジデンスなどを含む、エリアの複合開発プロ

ジェクトの基幹事業として位置づけられ、駅に直結するほかジャカルタの主要環状線である高速道路もあり、広域からの集客も期待できます。館内は高級感のあるスタイリッシュな雰囲気表現しつつ、天然木を使用した温もりのモール空間を提供しています。

リニューアル

地域の特性に合わせた快適な館内を創出

●イオンモールBSD CITY(インドネシア)

インドネシア1号店として2015年に開業して以来初の大型リニューアルを2期にわたり実施しました。年間の半分が雨季という特性に合わせて、モール直結の立体駐車場の新設やエントランスの拡充をおこなうなど、天気や気候に合わせた館内へとアクセスできる環境を整備。また、祈祷室の内装を刷新しお客さまに快適に使用していただいています。

若者向けフロアの魅力や機能を拡充

●イオンモール武漢金銀潭(中国)

人気のストリートファッションやコスメ、洗練されたレディスファッション専門店を新たに加え、トレンドに敏感な若者のライフスタイルに対応。また、当モールが誇るスポーツゾーンにトラックコースを導入したほか、キッズゾーンでは英語や運動などの教育プログラムをいっそう充実させ、健康で生き活きた毎日を彩ります。

新たな体験を楽しむという価値を創出

●イオンモール蘇州園区湖東(中国)

常に新鮮なモール環境を提供することをめざし、食や都会的なファッションブランドを充実させるなど53店舗を刷新。床面を踏むと音が出て色が変わるお子さま向けのLED体験型コンテンツを設置するほか、事前登録によりお客さまの顔、もしくはスマートフォンのQRコードでキャラクターカートが利用できるサービスを導入するなど、新しい体験と発見を提供しています。

その他2021年度にリニューアルを実施したモール

- イオンモール武漢金橋(湖北省)
- イオンモール武漢経開(湖北省)
- イオンモール広州番禺広場(広東省)
- イオンモール広州金沙(広東省)
- イオンモール佛山大瀝(広東省)

外部機関による認証・評価/表彰

私たちは、「人と環境に配慮したモールづくり」のため、ハード/ソフトの両面から先進的な取り組みを導入してまいりました。2021年度も国内・海外の各機関から高い評価をいただいています。



ESG評価機関からの認証・評価

CDPでスコアBを取得

国際的な環境調査と情報開示をおこなう非営利団体CDPにおいて、気候変動への戦略および対応が評価され、「B」評価を取得しました。今回の調査では、約13,000以上の企業がCDPを通じて環境問題に関する戦略および対応について情報を開示しており、企業は「A」から「D-」の8段階のスコアで評価、公表されています。評価結果は機関投資家による投資判断などに活用されています。



2021年GRESBリアルエステイト評価で、最上位の「5スター」評価を2年連続で取得

2021年GRESBリアルエステイト評価において、当社は、総合スコアのグローバル順位により5段階で格付けされるGRESBレーティングで最高位の「5スター」を2年連続で取得しました。また、ESG推進のための方針や組織体制などを評価する「マネジメント・コンポーネント」と、保有物件での環境パフォーマンスやテナントとの取り組みなどを評価する「パフォーマンス・コンポーネント」の双方において優れた参加者であることを示す「グリーンスター」の評価を7年連続で獲得しました。



ESG投資のための株価指数構成銘柄に選定

財務情報のみならず、環境・社会・ガバナンスへの取り組み（非財務情報）で企業の価値を測り投資判断の材料とする「ESG投資」。この投資手法が急速に拡大する中で、当社は機関投資家向けに投資情報を提供する機関が、ESG評価に優れた企業を選別して算出する各種指数の構成銘柄に選定されています。

●MSCI日本株女性活躍指数 (WIN) ●S&P/JPXカーボン・エフィシエント指数 ●SOMPOサステナビリティ・インデックス



10モールが「DBJ Green Building認証」を取得

「DBJ Green Building認証」は、株式会社日本政策投資銀行 (DBJ) が、対象物件の環境性能に加え、当該物件を取り巻くさまざまなステークホルダーからの社会的要請への配慮などを含めた総合評価システムに基づき認証しています。2022年1月に、イオンモール盛岡 (岩手県)*、イオンモール倉敷 (岡山県)*、イオンモール直方 (福岡県)*、イオンモール新利府 北館 (宮城県)、イオンモール高崎 (群馬県)、イオンモール成田 (千葉県) が4つ星、イオンモール新小松 (石川県) が最高位の5つ星を獲得しました。2022年3月にはイオンモール太田 (群馬県)*、イオンモール鈴鹿 (三重県)*、イオンモール京都五条 (京都府)* が4つ星を獲得しました。*再認証取得モールです



外部からの表彰

ショッピングセンター運営優秀実践事例として受賞

2021年7月、中国チェーンストア経営協会 (CCFA) 主催の「中国ショッピングセンター・チェーンブランド発展サミットおよび展覧会2021」において、イオンモール武漢金銀潭 (中国) が「2021 CCFA金百合賞ショッピングセンター運営優秀実践事例」を受賞しました。当モールは2020年7月に増床リニューアルを実施し、4階の立体駐車場の店舗化や約15,000㎡におよぶエリア最大級のレストラン街の新設、既存エリアの改善をおこなったほか、コロナ禍による武漢市の封鎖解除後には専門店の開業準備を迅速に支援。結果、4階レストラン街の開業率は同年7月31日に90%、年内100%を達成した点などを評価いただきました。



「99 Giving Day」愛心支持賞を受賞

イオンモール中国は、2021年10月に同国最大級の公益イベント「99 Giving Day」において、民間公益組織の壹基金 (One Foundation) より「2021年99公益日愛心支持賞」を受賞しました。壹基金およびイオングループ中国本社と連携し、同国内22モールで1元以上を寄付いただいたお客さまにノベルティをプレゼントする活動では計19,800名に支援いただいたほか、館内ポスターやLEDスクリーンで公益活動への参加を呼びかけるなど、継続的な取り組みを高く評価いただきました。



「トップ5オフィス&ショッピングセンター2020」を受賞

2021年3月、イオンモール ハドン (ベトナム) が「トップ5オフィス&ショッピングセンター2020」を受賞。経済・建設・不動産の分野におけるジャーナリストや経済界のトップ会員50万名による投票プログラムにより選定されたもので、地域最大規模のショッピングモールであるとともに、自然環境との共生を意識したライフスタイルを提案している点やユニバーサルデザインガイドラインに則った高い利便性を評価いただきました。



「App Ape Award 2020」アプリ・オブ・ザ・イヤー優秀賞を受賞

2021年2月、「イオンモールアプリ」がスマホアプリ分析プラットフォーム「App Ape (アップ・エイプ)」を手がけるフラール株式会社主催の「App Ape Award 2020」において、本質的な成長を遂げたアプリとしてアプリ・オブ・ザ・イヤー優秀賞に選ばれました。イオンモールアプリは2020年6月に全面リニューアルし、登録したお気に入りショップからの情報配信、自宅からモールまでの経路や館内でのルート案などの機能を導入。いっそう充実したコンテンツで利便性や使いやすさを高めています。



「おおさかストップ温暖化賞」優秀賞を4度目の受賞

大阪府環境農林水産部が主催する「おおさかストップ温暖化賞」は、事業活動において排出される温室効果ガスや人工排熱の抑制など、模範となる特に優れた取り組みをおこなった大阪府内に事業所を持つ事業者を表彰するものです。当社が管理・運営する、イオンモール堺北花田、イオンモールりんくう泉南、イオンモール鶴見緑地、イオンモール四條畷、イオンモール堺鉄砲町、イオンモール藤井寺ショッピングセンターは、CO₂フリー電力の活用やEV充電器の増設などにより、平成30年度比で温室効果ガスの排出量が4.6%削減したことを評価いただきました。



「第3回こおりやまSDGsアワード」を受賞

2022年2月、ショッピングモールフェスタ (福島県) を運営する当社の連結子会社である株式会社日和田ショッピングモールは「第3回こおりやまSDGsアワード (一般部門)」を受賞しました。こおりやま広域圏を構成する16市町村が「SDGs体感未来都市」の実現に向けて特に優れた取り組みをおこなう住民、団体、事業者などを表彰するもので、同社は商業施設のメリットを活かした地域社会とのコラボレーションによるSDGs普及・実践活動として、「SDGs WEEK」の開催や専門店と連携した食育・食品ロス削減などの取り組みが評価されました。



補足データ

献血活動

全国のモールで献血会場を提供し、日本赤十字社の活動を継続的に支援しています。2021年度は新型コロナウイルスの感染拡大防止に配慮しつつ、日本赤十字社の要請に応じて受け入れ態勢を強化したことで、実施人数は前年度比で約550%、感染症が流行する前の2019年度と比較しても約130%に増え、これまで以上に多くのお客さまにご協力いただきました。

2021年度の実績

開催のべ日数	献血実施人数	採血量
4,322日	217,946名 (前年度比:555.9%) (2019年度比:128.7%)	82,039ℓ (前年度比:550.0%) (2019年度比:129.8%)

イオン幸せの黄色いレシート

毎月11日は、イオンモールの専門店でお買い物の際に黄色いレシートを発行。レシートを地域の福祉団体などの名前が書かれた専用BOXに投函していただくと、合計金額の1%と同等額のイオンギフトカードをその団体に寄付しています。2021年度の寄付額(イオンモール合計)は22,780,353円でした。

2021年度募金活動結果(全国のイオンモール合計)

イオングループの社会貢献活動の一環としておこなう募金活動には、例年多くのお客さまからご協力をいただいています。

●障がい者ものづくり応援募金 2021/2/6～3/7	3,502,955円	●24時間テレビ募金 2021/7/16～8/29	18,856,129円
●イオンユニセフセーフウォーターキャンペーン募金 2021/4/10～5/9	3,897,943円	●首里城支援募金 2021/11/1～11/30	7,115,141円
●医療従事者支援募金 2021/4/29～6/30	2,159,217円	●全国子ども食堂応援募金通常募金 ※11月に実施のクリスマスイベント企画募金含む 2021/12/4～2022/1/10	8,139,293円
●全国子ども食堂応援募金 2021/7/3～8/1	2,476,981円	●アジア障がい者支援募金 2022/1/11～2/10	4,928,976円

2021年度の廃棄物排出総量とリサイクル率 国内直営モールのリサイクル率(サーマル・リサイクル含む) 92.7%

項目別排出量とリサイクル率							
1	生ゴミ	12,727t	96.3%	10	紙類	1,971t	100.0%
2	段ボール	23,086t	100.0%	11	粗大ゴミ	413t	80.7%
3	雑芥	19,846t	82.3%	12	その他不燃ゴミ	1,360t	69.3%
4	廃プラスチック	3,540t	97.9%	13	蛍光灯	13t	94.2%
5	ペットボトル	511t	100.0%	14	廃電池	23t	95.4%
6	ビン	294t	94.8%	15	ワリバシ	73t	99.2%
7	缶	558t	100.0%	16	廃アルカリ・剥離剤	14t	16.4%
8	発泡スチロール	144t	100.0%	17	汚泥	5,686t	87.8%
9	廃油	1,823t	100.0%	18	廃エンジンオイル	0t ※排出なし	-

eco検定アワード2021でエコユニット部門優秀賞を受賞

東京商工会議所が主催し、eco検定で身に付けた知識を活かして環境活動に取り組む企業を表彰するeco検定アワード。前年度の環境活動への取り組みを評価いただき、「エコユニット部門優秀賞」を受賞しました。当社では環境保護に対する意識の向上および取り組みの推進をめざし、国内の従業員にeco検定の取得を奨励。対象の約8割にあたる1,531名がeco検定を取得しています。

従業員データ:連結(2022年2月末現在)

	2020年度	2021年度
従業員数 ※臨時雇用者は()外数で記載	3,656名 (1,552名)	3,756名 (1,582名)

従業員データ:単体(2022年2月末現在)

	2020年度	2021年度
従業員数 ※臨時雇用者は()外数で記載	1,842(1,349)名	1,939(1,509)名
①男性	①1,196(1,150)名	①1,239(1,159)名
②女性	②646(1,199)名	②700(1,350)名
新入社員数 (男性/女性)	87名 (46名/41名)	65名 (30名/35名)
管理職 うち女性管理職	912名 165名(18.0%)	988名 192名(19.4%)
役員 うち女性役員	18名 4名(22.2%)	17名 6名(35.3%)
育児休暇取得者数 (うち男性)	52名 (23名)	63名 (36名)

現地法人ローカルスタッフ人数(2022年2月末現在)

	2020年度	2021年度
合計	1,429名	1,465名
うち中国	790名	807名
うちアセアン	639名	658名

2021年度インプット/アウトプット(国内100モール)



※対象は共有部分、イオン、専門店も含むモール全体。
ただし廃棄物およびリサイクル率は専門店とイオンモール事務所が対象、
植樹本数は国内・海外のモールすべてが対象となります。
※()内は対前年比

当社のESGに関する情報はWebサイトでもご紹介しています。どうぞご参照ください。

<https://www.aeonmall.com>

イオンモール HP

検索



社会課題を解決するイオンモールの指針

	重要課題(マテリアリティ)	2030年にめざす姿(KPI)	2050年にめざす姿(KGI)
地域・社会インフラ開発 	持続可能かつレジリエントなインフラ開発	①BCP体制の強化策としての国内全モール防災拠点化 ②地方自治体との防災協定締結割合	地域の方が常に安全・安心を感じることのできる社会
	生産消費形態	①エシカル消費の推進 グリーン購入率 ②脱プラスチックの取り組み推進	適切な生産消費により地球環境への影響が限りなくゼロに近い社会
地域とのつながり 	文化の保存・継承	伝統・文化イベントの積極的開催と海外含む他地域への展開	文化継承のプラットフォームが構築されている社会
	少子化・高齢化社会	①子ども向けサービスの充実 ②認知症サポーター数	キッズ、シニア含むすべての人が快適に暮らせる社会
環境 	気候変動・地球温暖化	①EV充電器設置の拡大 EV充電器設置台数 ②再生可能エネルギー創出による年間CO ₂ 排出量総量35%削減 ③地域住民、専門店向け環境啓蒙取り組みの強化 ④eco検定の取得率100%	①脱炭素が達成された社会 ②地域全体で環境配慮に取り組む社会
	生物多様性・資源の保護	①ABINC認証(いきもの共生事業所)の取得モール数 ②リサイクル率70%の達成 ※サーマルリサイクル除く	環境に配慮し自然と調和した社会
ダイバーシティ・働き方改革 	健康と福祉	健康的なライフスタイルの提案	すべての方が心身ともに健康でいられる社会
	多様性・働き方	①女性管理職比率 ②男性育児休暇取得率100% ③グローバルで活躍する人材育成の推進	人種、国籍、年齢、性別、場所に関わらずすべての人に均等な機会が与えられている社会
責任あるビジネスの推進 	人権	①人権デュー・ディリジェンスのプロセスの設定・導入 ②人権教育研修100%受講	すべての人に対して人権が尊重されている社会
	贈収賄	①贈賄防止基本規則の遵守に向けた贈賄教育・啓発の実施 ②就業規則内、収賄防止条項の継続的遵守 ③贈賄防止基本規則の遵守体制の継続的な見直しと贈賄防止基本規則の遵守状況の年1回以上の代表取締役社長への報告及び是正の徹底	インシデント発生件数0件



ひと、
まちも、
きらきら。

イオンモール株式会社

〒261-8539 千葉県千葉市美浜区中瀬1丁目5番地1
TEL: 043-212-6348

<https://www.aeonmall.com>



イオンモール株式会社は、
環境マネジメントシステムの
国際規格「ISO14001」の
認証取得企業です。



本冊子は適切に管理された森林資源および管理原材料を使用した紙を用い、植物油インキを使用するとともに、印刷時に有害な廃液が出ない「水なし印刷」で印刷しています。



2022.05